

出来形管理基準

2025年 4月



ひと・まち・くらしをネットワーク

首都高速道路株式会社

まえがき

本基準は平成 18 年 2 月に土木工事共通仕様書、土木材料仕様書、工事監督の手引き、及び各種設計・施工基準等により定めていた出来形管理基準をとりまとめ制定された。今般、各種要領等の改訂が行われていることから、本基準を改訂したものである。

主な改訂内容は、次の通りである。

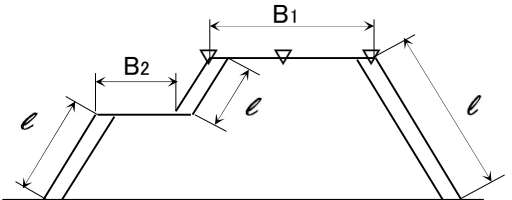
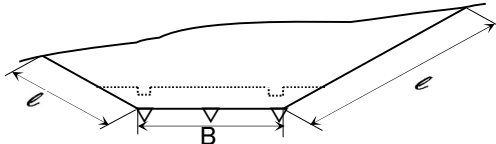
- 1 準用している関連基準の時点更新をした。

2025 年 04 月
技術企画課長

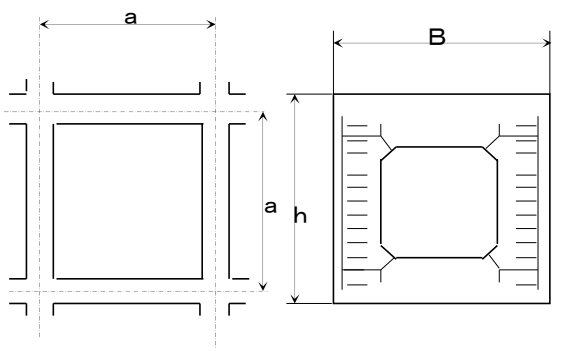
目次

1. 道路土工	1-1
2. 法面工	2-1
3. 地盤改良工	3-1
4. 仮設工	4-1
5. 基礎工	5-1
6. コンクリート構造物工	6-1
7. 床版工	7-1
8. 鋼構造物工	8-1
9. 上部工	9-1
10. 舗装工	10-1

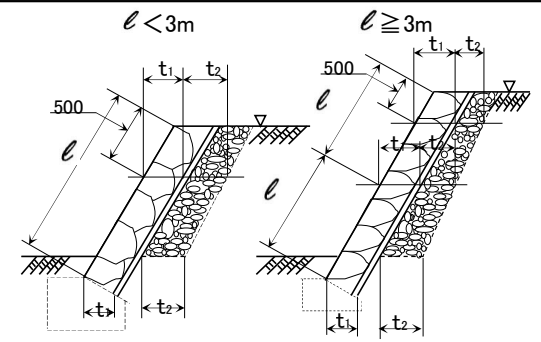
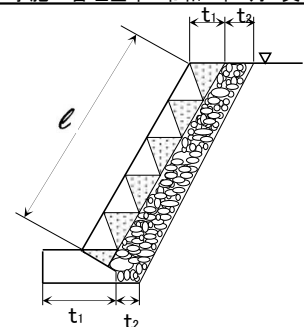
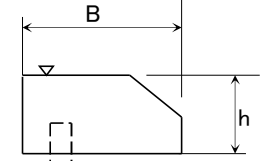
※工事の種類、規模、施工条件等により、この出来形管理基準によりがたい場合、
または、基準、規格値等が定められていない工種については、監督職員と協議の上、
施工管理を行うものとする。

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
道路 土工	盛土工	基準高さ	0~-50	<p>基準高は、道路中心及び端部で測定する 測定間隔は、直線部及び曲線半径300m 以上は20m間隔 曲線半径300m以下は、10m間隔 地形の複雑な箇所は、5m間隔に測定 する。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(または 50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 (関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び 規格値 令和6年度版 頁 I-8)</p> 
		幅 B1 B2	0~+100	
		法長 $l < 5m$	-100	
		法長 $l \geq 5m$	$l \times (-2\%)$	
土工	切土工 (掘削工)	基準高さ	-50	
		幅 B	0~+100	
		法長 $l < 5m$	-200	
		法長 $l \geq 5m$	$l \times (-4\%)$	

工事監督の手引きP2-20(丁張横準設置間隔引用)

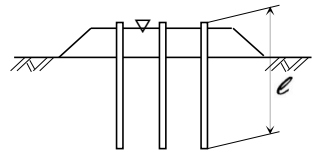
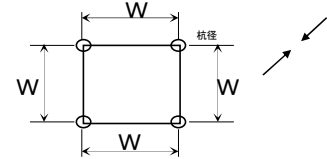
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要		
工種	測定項目					
法 面 工 (1)	現場打法砕工	法長 $\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	 <p>曲線部は設計図書による</p> <p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 I-127</p>	
		法長 $\ell \geq 10\text{m}$	-200			
		吹付砕中心間隔 a	± 100	砕延長100mにつき1箇所、砕延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		高さ h	-30			
		幅 B	-30			
		延長 L	-200	1施工箇所毎。		
工 (1)	プレキャスト法砕工	法長 $\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	<p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 I-127</p>	
		法長 $\ell \geq 10\text{m}$	-200			
		延長 L	-200	1施工箇所毎。		
種子吹付工 客土吹付工 張筋芝工 市松芝工 植生ネット工 種子帯工 植生穴工 人工張芝工	切土法長	$\ell < 5\text{m}$	-200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	<p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 I-124</p>	
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-4%			
		盛土法長	$\ell < 5\text{m}$			-100
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-2%			
	延長 L	-200	1施工箇所毎。			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
法 面 工 (2)	コンクリート基礎工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、 延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-26 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁25	
		幅 B	-30		
		高さ h	-30		
		延長 L	-200		
	コンクリート ブロック積工 ブロック張工	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、 延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-29 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁25	
		法長	$l < 3m$		-50
			$l \geq 3m$		-100
		厚さ	t1		-50
			t2		-50
	延長 L	-200			
	石積(張)工	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、 延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 法長が変化する場合は変化点間の延長も測定する。 厚さは法長が3m未満の場合は下端部及び上端部(天端より50cm下がり)の2箇所、3m以上の場合は法長の間中部を加えた3箇所を測定する。 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-30 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁25	
		法長	$l < 3m$		-50
$l \geq 3m$			-100		
厚さ		石積、石張 t1	-50		
		裏込工 t2	-50		
延長 L	-200				

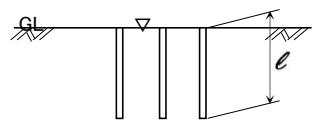
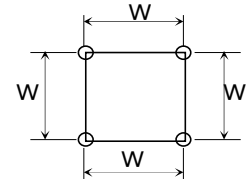


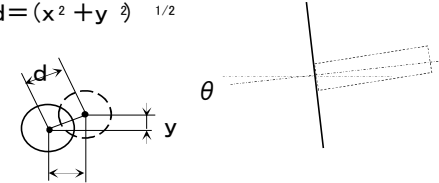
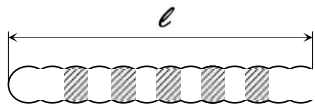
測定対象		規格値 (単位 mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
地盤改良工 (1)	表層固結工 (石灰、セメント等)	基準高さ	±50	施工延長40mにつき1箇所 の割で測定 基準高及び施工厚さは、 中心線及び端部で測定する。	 <p> 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-103 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁43 </p>
		幅 W	-100		
		施工厚さ t	-50		
		延長 L	-200		
	置換工法	基準高さ	±50	施工延長40mにつき1箇所 施工延長40m以下については1施工箇所につき2箇所測定する。 厚さは、中心線及び端部で測定する。	 <p> 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-103 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁43 </p>
		施工厚さ t	-50		
		幅	-100		
		延長 L	-200		



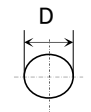
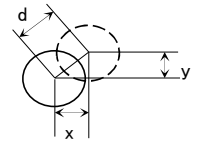
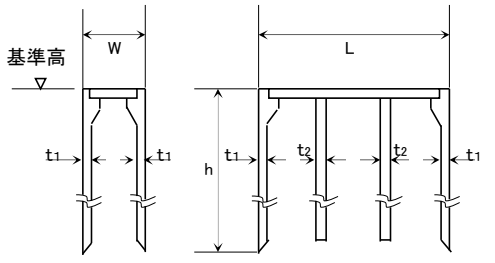
測定対象		規格値 (単位 mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
地盤改良工 (2)	サンドドレーン工法 ペーパードレーン工法 サンドコンパクション工法	位置・間隔 W	± 100	位置・間隔については、100本に1箇所 100本以下は2箇所測定 1ヶ所に4本測定 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数 打ち込み長さ、砂の投入量は、全本数測定する 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-105 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁44
		杭径 D	設計値以上	
		打込長さ ℓ	設計値以上	
		砂の投入量	-----	
深層混合処理工法	深層混合処理工法	基準高 ▽	- 50	100本に1箇所 100本以上は、2箇所測定する 1箇所に4本測定する 全数について測定する 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-106 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月 頁44
		位置・間隔 W	D/4以内	
		杭径 D	設計値以上	
		深度 ℓ	設計値以上	



※ 余長は適用除外



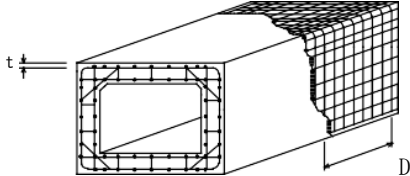
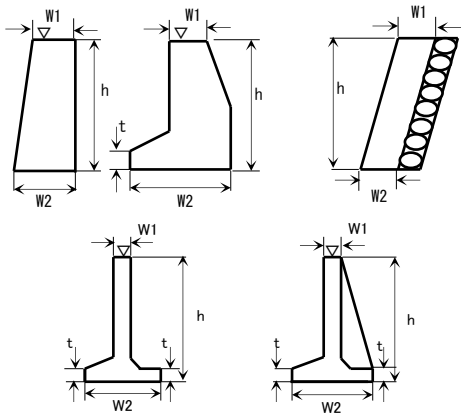
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要		
工種	測定項目					
仮設工	共通事項	延長(各工事共通)	各工事による	各ブロック毎に測定する	延長の規格値はブロック毎に満足する 総延長もこの規格値を満足すること	
	仮設鋼矢板工 仮設軽量鋼矢板工 鋼管矢板工 仮設H鋼杭工	基準高 ∇	± 100	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)ごとに1箇所 40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所測定		関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-108 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月頁39
		根入長	設計値以上			
		芯からのずれ e	100	芯からのずれは施工延長20mごとに1箇所 20m以下のものは1施工箇所につき2箇所以上測定		
	グラウンドアンカー工	削孔深さ e	設計深さ以上	全数		$d = (x^2 + y^2)^{1/2}$ 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-108 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月頁42
		配置誤差 d	100			
		せん孔方向 θ	± 2.5 度			
	地中連続壁土留工 (柱列式)	基準高 ∇	± 50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)ごとに1箇所 40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所測定	 D:柱径 L:壁体長	関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁I-110 東京都土木工事施工管理基準 令和6年4月頁42
		連壁の長さ e	- 50			
		芯からのずれ e	D/4以内	芯からのずれは施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)ごとに1箇所 20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2箇所以上		
		壁体長 L	-200	壁体長Lは、設計値が確保されていることを、掘削深、H鋼等の出来形、コンクリート打設量等により確認する		

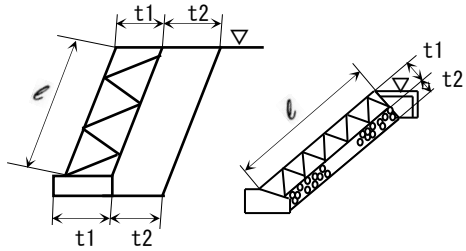
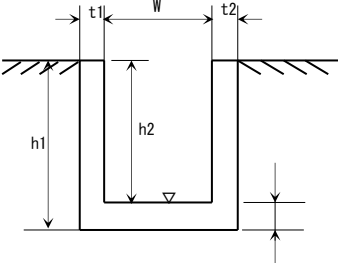
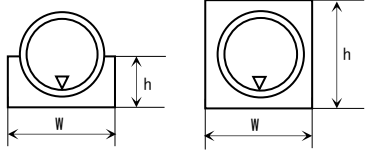
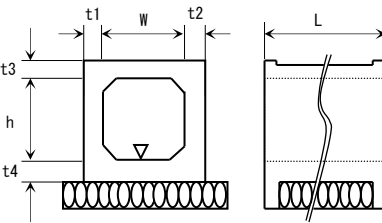
測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
基礎工 (1)	栗石基礎 砕石基礎	幅 W	設計値以上	 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。 施工延長が40m(又は50m)以下は2箇所測定する。	 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-25
		厚さ t ₁ , t ₂	- 30		
	既製杭工	基準高 ▽	± 50	全数について杭中心で測定する。 傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向等)とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 測定結果は、一覧表にまとめ整理する。	D:杭径  $d = (x^2 + y^2)^{1/2}$
		偏心量 d	D/4かつ100以内		
		根入長	設計値以上		
		傾斜	1/100以内		
	場所打杭工	基準高 ▽	± 50	全数について杭中心で測定する。 傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向等)とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 測定結果は、一覧表にまとめ整理する。	 関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-25, 26
		偏心量 d	100以内		
		根入長	設計値以上		
		杭径 D	設計径(公称径) -30以上		
		傾斜	1/100以内		
	オープン ケーソン基礎工	基準高 ▽	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定する。	$d = (x^2 + y^2)^{1/2}$  関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値 令和6年度版 頁 I-28
		ケーソン長さ	- 50		
		ケーソン高さ	- 100		
		ケーソン幅	- 50		
ケーソン壁厚		- 20			
偏心量 d		300以内			

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
基礎工 (2)	ニューマチックケーソン基礎工	基準高 ▽	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定する。	<p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値令和6年度版 頁 I-28</p>
		ケーソン長さ L	- 50		
		ケーソン高さ h	- 100		
		ケーソン幅 W	- 50		
		ケーソン壁厚 t	- 20		
		偏心量 d	300以内		
	鋼管井筒基礎工	基準高 ▽	± 100	基準高は、全数を測定する。 偏心量は、1基ごとに測定する。	<p>$d = (x^2 + y^2)^{1/2}$</p> <p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値令和6年度版 頁 I-28</p>
		偏心量 d	300以内		
		根入長 <i>l</i>	設計値以上		
	地中連続壁土留工 (壁式)	基準高 ▽	± 50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は5m)につき1ヶ所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	<p>関東地方整備局 土木工事施工管理基準及び規格値令和6年度版 頁 I-109</p>
連壁の長さ <i>l</i>		- 50			
変位		300以内			
壁体長 L		設計値以上			

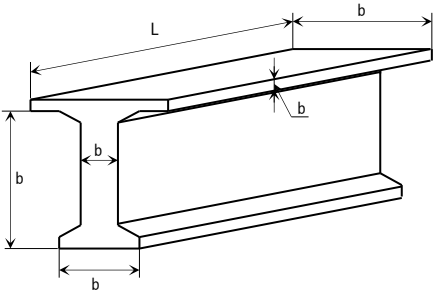
6. コンクリート構造物工

本管理基準は高速道路工事に適用するものであり、街路築造工事は、最終管理者基準に基づき構築する。

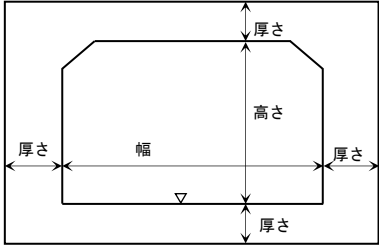
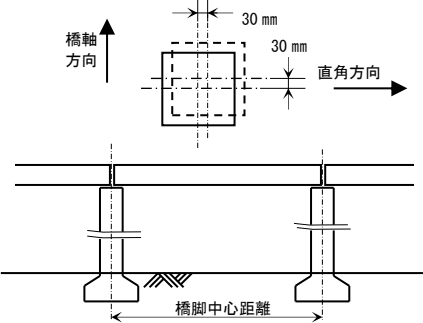
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
共通	鉄筋の平均間隔 d	± φ	$d=D/(n-1)$ D:n 本間の延長 n:10 本程度とする φ:鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書(III コンクリート橋編 6.6)による。 注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁(PC橋含む)の鉄筋については、7.床版工を適用する。	
	鉄筋のかぶり t	-10~+20 かつ最小かぶり以上		
現場打コンクリート擁壁工	基準高さ ▽	±20	目地部ごとに測定する（出来形図表による） W1, W2, h, t に関しては妻型枠脱型時に必ず測定しておく事	
	幅 W1, W2	-5~+10		
	高さ h	-20~+30		
	厚さ t	-5~+20		
	延長 L L ≤ 30m 30m < L ≤ 100m 100m < L	±30 ±L/1000 ±100		

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート構造物(2)	ブロック積 ブロック張 石積・石張	基準高さ ∇	± 20	施工延長 20m に付き 1箇所とする	
		厚さ t_1, t_2	± 30		
		のり長 $l < 3m$	± 50		
		$l \geq 3m$	± 100		
		延長 L			
	$L \leq 30m$	± 30			
	$30m < L \leq 100m$	$\pm L/1000$			
	$100m < L$	± 100			
	側溝	基準高 ∇	± 10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、柵の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 30mにつき 1箇所とする	
		幅 W	± 10		
		高さ h_1, h_2	± 10		
		厚さ t_1, t_2, t_3	± 10		
		長さ L	-100		
	管渠	基準高 ∇	± 10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、柵の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1箇所とする	
		幅 W	± 10		
		高さ h	± 10		
		長さ L	-100		
	函渠	基準高 ∇	± 10	目地間隔が 30m未満のときの測定箇所は、柵等の間隔ごと、目地間隔が 30m以上のときの測定箇所は、施工延長 20mにつき 1箇所とする	
		厚さ t_1, t_2, t_3, t_4	± 10		
		幅(内のり) W	± 10		
高さ h_1		± 10			
長さ L		-100			

出来形管理基準
6. コンクリート構造物工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート構造物(3)	長さ L L ≤ 13m 13m < L ≤ 21m 21m < L	±10 ±L/1000 ±30		
	断面寸法 b b ≤ 1m 1m < b	±5 ±10		
	横方向のたわみ	(1.5L-6)mm L=m ただし、10mmを超えてはならない		
	主桁間隔	±20		
	掘割構造物及び半地下擁壁構造物	防水マット及び防水シート継手のラップ幅 W	W ≥ 100	

出来形管理基準
6. コンクリート構造物工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート構造物(4)	トンネル	基準高 ▽	±20	施工ブロック端部毎に測定する クラック展開図、打撃試験、鉄筋カブリ探査試験については出来形図による	
		幅	0~+30		
		高さ	0~+30		
		躯体の厚さ	±10		
		長さL	-100		
	橋脚	変位	橋軸方向、直角方向とも ±30		
		橋脚中心距離	±30 ただし、支承が支障なく設置できる場合に限る		

出来形管理基準
6. コンクリート構造物工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
コンクリート 構造物(5)	フーチング 及び橋脚	梁の長さ	-10~+30	
		梁の高さ①②	-10~+20	
		梁の幅	±10	
		柱の幅	±10	
		基礎の高さ①②	-10~+30	
		基礎の幅	-10~+30	
		柱の間隔(門形の場合)	±20	
		基準高(梁天端)	±20	
		基準高(基礎)	±20	
		基準高(沓座)	-20	
		沓座偏心量	鋼製支承 ±5 ゴム支承 ±10	
鉛直度(参考値)				
h ≤ 10m	±10			
h ≥ 10m	h/1000			

出来形管理基準
6. コンクリート構造物工

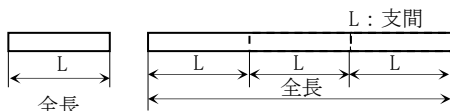
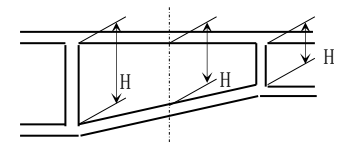
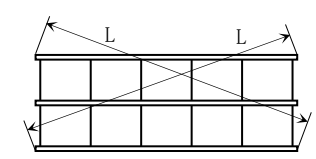
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
コンクリート構造物(6)	橋台	基準高	±20		
		橋台の天端長	-10~+30		
		橋台の敷長	-10~+30		
		橋台の天端幅 a1(橋軸方向)	-5~+10		
		橋台の天端幅 a2(橋軸方向)	-5~+10		
		橋台の敷幅 a3(橋軸方向)	±10		
		橋台の高さ h1	±10		
		胸壁の高さ h2	±10		
		控壁の厚さ t	-5~+20		20m以下のものは1施工箇所につき2箇所以上
		胸壁間距離 L (支間方向の中心距離)	±30 ただし、支承が支障なく設置できる場合に限る		

7. 床版工

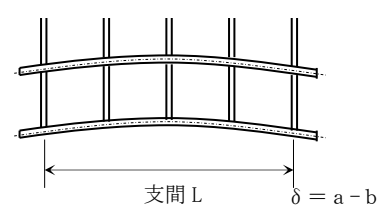
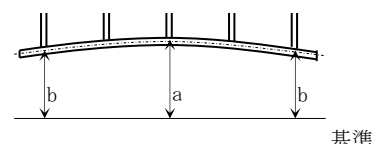
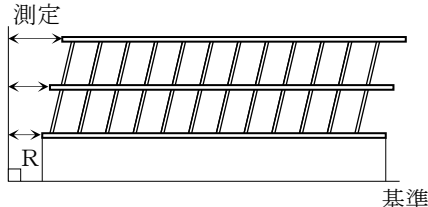
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
床版工(1)	床版	鉄筋のかぶり	設計かぶり以上	1 径間あたり両端と中央部の 3 点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
		鉄筋の有効高さ	±10		
		床版の厚さ	+10		
		鉄筋間隔	±20		
		上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10		
	平坦性	±10	床版工事及び舗装工事の出来形図表による		
	高欄	鉄筋のかぶり	±5 かつ最小かぶり以上	1 径間あたり両端と中央部の 3 点の主桁間を形枠・配筋後に測定	
		鉄筋間隔	±20	主筋について、1 径間あたり 3ヶ所(両端及び中央)測定。	
		高欄の幅	-5～+10	1 径間あたり両端と中央部の 3 箇所測定	
		高欄の高さ	±10		
		地覆の幅	+10～-10 ただし建築限界を犯さないこと		
		地覆の高さ h1	+20～-10 ただし建築限界を犯さないこと		
		地覆の高さ h2	+20～-10 ただし建築限界を犯さないこと		
		建築限界	建築限界を犯さないこと	曲線部は横断勾配の最大部分で検証する	

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
床版工 (2)	幅員	幅 a	0～+30	床版工事及び舗装工事の出来形図表による
		幅 b	0～+20	但し、高欄外側が他の建築限界、又は用地を侵す場合は±0とする

8. 鋼構造物工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼構造物(1)仮組時	桁	支間及び全長	$\pm (10+L/10)$ $L=m$		
		桁高	$H \leq 0.5m$	± 2	
			$0.5m < H \leq 1.0m$	± 3	
			$1.0m < H \leq 2.0m$	± 4	
			$2.0m < H$	$\pm (3+H/2)$	
	平面对角線長	$L \leq 10m$	± 5		
		$10m < L \leq 20m$	± 10		
		$20m < L$	$\pm [10 + (L-20)/10]$ $L=m$		

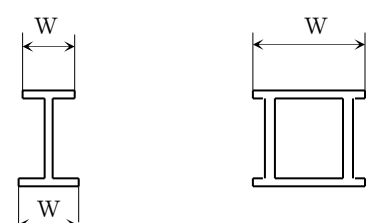
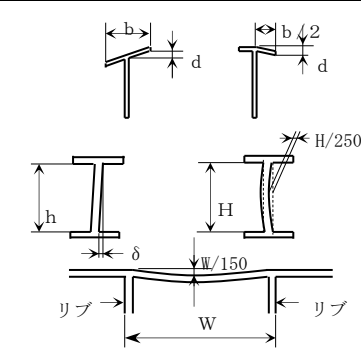
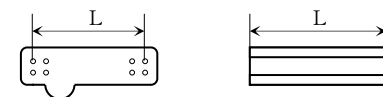
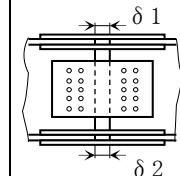
※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物(2)仮組時	桁	L ≤ 30m	$\delta = \pm 5$	 
		30m < L ≤ 50m	$\delta = \pm 10$	
		50m < L ≤ 70m	$\delta = \pm 15$	
		L > 70m	$\delta = \pm 20$	
	支承線の通り	±5		

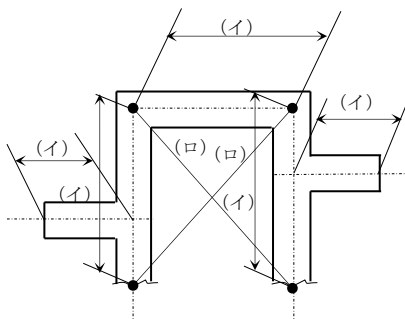
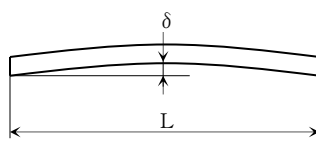
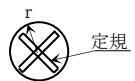
※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼構造物(3) 仮組時	桁	主桁間隔	$B \leq 2 : \pm 4$ $B > 2 : \pm (3+B/2)$		
		多主桁における 両耳桁間隔(E)	$E \leq 10m$		± 5
			$10m < E \leq 20m$		± 10
			$20m < E$		$\pm [10 + (E-20)/10]$ $E=m$
	製作キャンバー	$L \leq 20m$	± 5	<p style="text-align: center;">測定位置</p>	
		$20m < L \leq 40m$	-5~+10		
		$40m < L \leq 80m$	-5~+15		
		$80m < L \leq 200m$	-5~+25		

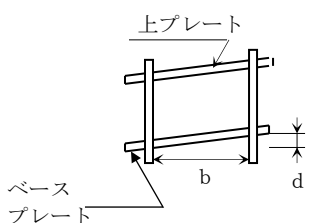
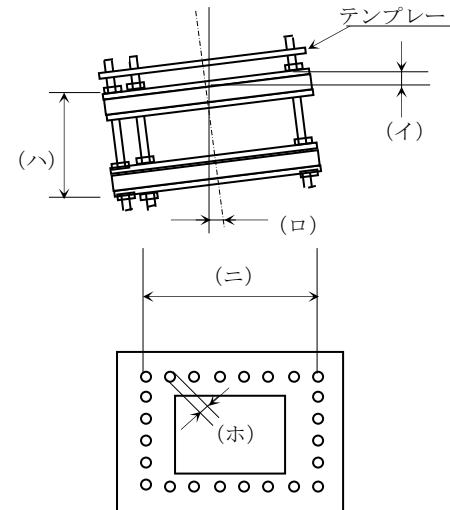
※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物(4)仮組時	フランジ幅	$W \leq 0.5m$	± 2	 <p>ただし、現場継手部は、相対誤差を規格値の1/2とし、3mmを超えてはならない。</p>
		$0.5m < W \leq 1.0m$	± 3	
		$1.0m < W \leq 2.0m$	± 4	
		$2.0m < W$	$\pm (3+W/2)$	
	フランジ直角度(d)		$b/200$	
	桁鉛直度(桁高h)		$3+(h/1,000)$	
	桁の平面度ウェブに対して(ウェブ高H)		$H/250$ $H=mm$	
	桁の平面度フランジに対して(フランジ幅W)		$W/150$ $W=mm$	
	部材長	$L \leq 10m$	± 3	
		$L > 10m$	± 4	
現場継手部の隙間		± 5	 <p>δ : 間における $\delta 1 \cdot \delta 2$ のうち大きいもの</p>	

※架設時は道路橋示方書に準ずる

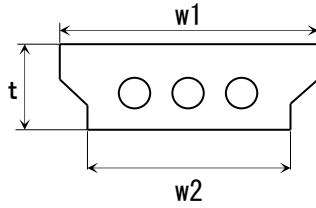
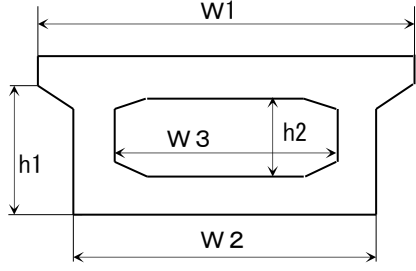
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼構造物(5)仮組時	ラーメン橋脚	柱の中心間隔長さ(イ)	$L \leq 10m$	± 5	 <p>略図に示した各々の値をLとする。</p>
			$10m < L \leq 20m$	± 10	
			$20m < L$	$\pm [10 + (L-20)/10]$	
		(ロ)同上	(ロ)同上	(ロ)同上	
		圧縮材の曲り		$\delta \leq L/1,000$	
		鋼管の真円度		半径に対して0.5%	 <p>定規</p>

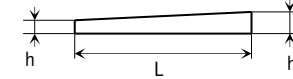
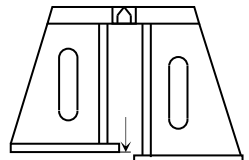
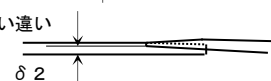

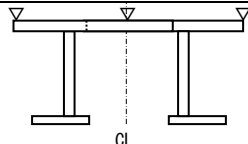
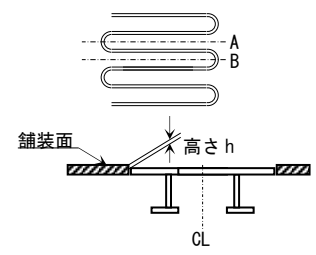
測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物(6)仮組時	ラーメン橋脚	ベースプレートの水平度	① $\delta \leq b/500$	 ①
		ベースプレートの寸法	② $\delta = \pm 2$ ③ $0 < \delta < +5$	
	(イ)梁のキャンバー及び柱の曲り	L/1,000		
	鉛直度	h ≤ 10m		10
		h > 10m		h
(ロ) δ	L/1,000			

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼構造物(7)仮組時	ラーメン橋脚	橋脚とベースプレートの鉛直度	$\frac{D}{b/2} \leq 1/500$	
		ボルト穴の垂直度	$\delta = 1/500$	
	アンカーフレーム	上面の水平度(イ)	$\delta = 1/500$	
		鉛直度(ロ)	$\delta = 1/500$	
		高さ(ハ)	$\delta = \pm 5$	
		ボルト位置(ニ)	$\delta = \pm 2$	
		ボルト径(ホ)	$0 \leq \delta \leq +5$	

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼 構 造 物 (8)	仕上げ寸法	$\delta = \pm 0.5$		
	支承の寸法	$\delta = \pm 3$		
	組立高さ			

9. 上部工

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
上部工(1) (PC橋梁)	PCホロースラブ 製作工 PC版桁製作工	基準高 ∇	± 20	桁全数について測定 基準高は、1径間当りの2箇所(支 点付近)で1箇所当りの両端と中 央部の3点、 幅及び厚さは1径間当り両端と中 央部の3箇所	都工事管理基準 P45 
		幅 W1 W2	$+30 \sim -5$		
		厚さ t	$+20 \sim -10$		
		桁長 L スパン長	$L < 15 \dots \pm 10$ $L \geq 15 \dots \pm (L - 5)$ かつ-30 以内 L: スパン長		
		横方向最大タワミ	0.8L		
	PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工	基準高さ	± 20	桁全数について測定 基準高は、1径間当りの2箇所(支 点付近)で1箇所当りの両端と中 央部の3点、 幅及び厚さは1径間当り両端と中 央部の3箇所	都工事管理基準 P45 
		幅(上) W1	$+30 \sim -5$		
		幅(下) W2	$+30 \sim -5$		
		内空幅 W3	± 5		
		高さ h1	$+10 \sim -5$		
		内空高さ h2	$+10 \sim -5$		
		桁長 L スパン長	$L < 15 \dots \pm 10$ $L \geq 15 \dots \pm (L - 5)$ かつ-30 以内 L: スパン長		
	横方向最大タワミ	0.8L	横方向タワミの測定は、プレスト レッシング後に測定		

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要		
工種	測定項目					
上部工(2) (伸縮継手)	伸縮継手 (仮組時精度)	長さ L	0~30	測定箇所 伸縮継手については、一般図にあ る主要寸法を測定する	鋼伸縮継手の場合(例：フィンガージョイント等)  伸縮装置の据付高さの差  フィンガーの食い違い delta 2 	
		高さ h, h'	$\delta = \pm 0.5$			
		組合せる伸縮装置の高さの差 $\delta 1$	設計値 ± 4			
		フィンガーの食い違い $\delta 2$	2			
	伸縮継手 (ゴム)	据付高さ	舗装面に対し $-3 < h < 3$			
		表面の凸凹	3			
		仕上げ高さ	舗装面に対し $-3 < h < 3$			
	伸縮継手 (鋼製)	高さ	据付高さ	± 3	高さは車道端部、中央部各3点計 9点	
			車線方向各点誤差の相対 差	3		
		表面の凸凹	3	縦方向及び横方向間隔は両端、中 央部の計3点		
縦方向間隔		± 2				
横方向間隔		± 5				
歯型板面に歯咬み合い部の高低 差		2				
仕上げ高さ h	舗装面に対し $-3 < h < 3$					

測定対象		規格値(単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
支 承 工 (鋼 橋 上 部 工 事)	鋼製支承	据付高さ	±5	支承全数を測定する B：支承中心間隔(m)	
		可動支承の橋軸方向のずれ	±10		
		支承中心間隔(橋軸直角方向)	±(4+0.5(B-2))		
		水 下 平 沓 度 の	橋軸方向		1/100
			橋軸直角方向		1/100
	同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	±5			
	ゴム支承	据付高さ	±5	支承全数を測定する 上部構造部材下面とゴム支承面との 接続面、及びゴム支承と台座モ ルタルとの接触面に肌すきが無い ことを確認する 支承便覧 P266. 268	
		支承中心間隔	±(4+0.5(B-2))		
		水 下 平 沓 度 の	橋軸方向		1/300 以下
	橋軸直角方向				
支 承 工 (コ ン ク リ ー ト 橋 上 部 工 事)	鋼製支承	据付高さ	±5	支承全数を測定する	
		可動支承の橋軸方向のずれ	±10		
		支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5		
		水 下 平 沓 度 の	橋軸方向		1/100
			橋軸直角方向		1/100
	同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5			
	ゴム支承	据付高さ	±5	支承全数を測定する 上部構造部材下面とゴム支承面との 接続面、及びゴム支承と台座モ ルタルとの接触面に肌すきが無い ことを確認する	
		支承中心間隔	±5		
		水 下 平 沓 度 の	橋軸方向		1/300 以下
	橋軸直角方向				

10. 舗装工

測定対象		規格値(単位mm)				管理基準	摘要		
工種	測定項目	個々の測定値	10個の測定値の平均 X10	X6	X3				
舗装工(1)	下層路盤 (クラッシュラン)	基準高	±40 以内				20m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること 厚さの規格値は各層に対するものであるため、舗装の総厚の平均値は、設計値を満足するように管理する	
		厚さ	-45 以上				20m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)		
		幅	-50 以上				40m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)		
		締固め度	管理データによる場合 93%以上	95%以上	96%以上	97%以上	抜取検査による場合		
	上層路盤 再生粒度調整砕石	厚さ	-25 以上				20m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること	
		幅	-50 以上				100m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)		
		締固め度	93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上			
	上層路盤 セメント・石灰安定処理混合物	厚さ	-25 以上				1～2 回/日		
		幅	-50 以上						
		締固め度	管理データによる場合 93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上			抜取検査による場合
		粒度 (%)	2.36	±15 以内	±10 以内	±9.5 以内			±8.5 以内
			75 μm	±6 以内	±4 以内	±4 以内			±3.5 以内
	セメント・石灰量 (%)	±1.2 以内	-0.8 以上	-0.8 以上	-0.7 以上				
	上層路盤 アスファルト安定処理混合物	厚さ	-15 以上				1000㎡ ごとに1箇所 ^{※1}	面管理を行う場合には、「関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値」によること 粒度・アスファルト量の規格値は、配合設計の値に対するものである	
		幅	-50 以上				100m ごとに1箇所 ^{※1} (原則として測点で測定)		
		締固め度	管理データによる場合 93%以上	95%以上	95.5%以上	96.5%以上	抜取検査による場合 アスファルト処理混合物層の締固め度は1,000 m ² に1組(3個以上/1組)		
		粒度 (%)	2.36	±12 以内					
			75 μm	±5 以内					
アスファルト量 (%)	±0.9 以内								

※1:施工範囲内起終点および中心部の3箇所は必ず測定する。

出来形管理基準
10. 舗装工

測定対象		規格値(単位mm)				管理基準	摘要	
工種	測定項目	個々の測定値	平均値	X6	X3			
舗装工(2)	基層	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m ^{※1}	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m ^{※1}	
		粒度 (%)	2.36 mm	±12 以内			1~2 回/日 基層及び表層は「床版工事及び舗装工事の出来形図表」による	
			75 μ m	±5 以内				
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
	表層 (小粒径ポーラスアスファルト混合物・半たわみ性舗装以外)	厚さ	-7 以上	-2 以上				1 箇所/20m ^{※1}
		幅		-25 以上				1 箇所/20m ^{※1}
		粒度 (%)	2.36 mm	±12 以内			1 測線/車線 (標準偏差)	
			75 μ m	±5 以内				
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
平坦性	3m プロファイルメーター : δ 2.4 mm 以内							

※1: 施工範囲内起終点および中心部の 3 箇所は必ず測定する。

測定対象		規格値(単位mm)				管理基準	摘要	
工種	測定項目	個々の測定値	平均値	X6	X3			
舗装工(3)	表層 (小粒径ポーラス アスファルト混合 物)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		粒度 (%)	2.36 mm	±12 以内				1~2 回/日
			75 μm	±5 以内				
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		平坦性	3mプロファイルメーター：δ 2.4 mm以下					1 測線/車線 (標準偏差)
		現場透水量 (秒/400ml)		8.5 以下				1 箇所/100m ^{*1}
	すべり抵抗値	BPN≥60					1 箇所/100m ^{*1}	
	グースアスファルト舗装工	厚さ	-9 以上	-3 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		粒度(%)	2.36 mm	±12 以内				1~2 回/日
			75 μm	±5 以内				
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					ストレートアスファルト 20/40 : 印字記録 TLA : 空袋検収
		リュエル流動性						

※1:施工範囲内起終点および中心部の3箇所は必ず測定する。

測定対象		規格値(単位mm)				管理基準	摘要	
工種	測定項目	個々の測定値	平均値					
舗装工(4)	表層 (半たわみ性舗装)	厚さ	-7 以上	-2 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		幅		-25 以上			1 箇所/20m ^{*1}	
		粒度(%)	2.36 mm	±12 以内				1~2 回/日
			75 μ m	±5 以内				
		アスファルト量(%)	±0.9 以内					
		フロー値	9~14 秒					
		路面の平坦性	3m プロファイルメーター : δ 2.4 mm以内				1 測線/車線(標準偏差)	
		すべり抵抗値 (伸縮継手前後)	BPN60 以上				全伸縮装置	
	すべり抵抗値 (上記以外)	DFT μ 80 ≥ 0.35				1 箇所/100m ^{*1}		
	路肩部	舗装総厚	80 ± 5 mm以内				1 箇所/20m ^{*1}	
勾配		8.5 ± 1%以内				1 箇所/20m ^{*1}		

※1:施工範囲内起終点および中心部の3箇所は必ず測定する。

出 来 形 图 表

出来形図表 目 次

- 11-1 盛土工及び切土工の出来形図表
- 11-2 路盤工の出来形図表
- 12-1 擁壁・ブロック積の出来形図表
- 12-2 函渠、側溝、管渠の出来形図表

- 13-1 トンネル出来形図表
- 13-2 トンネル出来形管理表

- 14-1 基礎杭の出来形図表
- 14-2 ケーソンの出来形図表
- 14-3 下部の出来形図表
- 14-4 下部の出来形図表
- 14-5 沓座設置出来形図表
- 14-6 沓座アンカーボルト出来形管理表

- 15-1 PC桁工事の出来形図表
- 15-2 PC桁工事の出来形図表

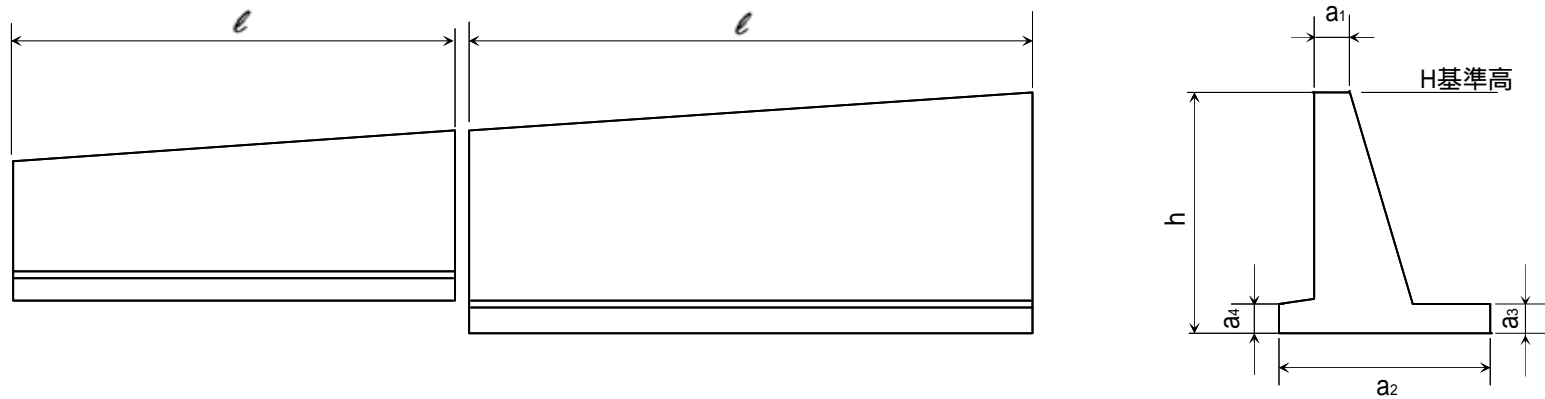
- 16-1 床版工事の出来形図表
- 16-2 床版工事及び舗装工事の出来形図表
- 16-3 床版遊間量の測定図表

- 17-1 鋼桁、床版、舗装工事の出来形図表
- 17-2 舗装平坦性出来形図表

- 18-1 街築工事の出来形図表
- 18-2 街築工事の出来形図表
- 18-3 街築工事の出来形図表

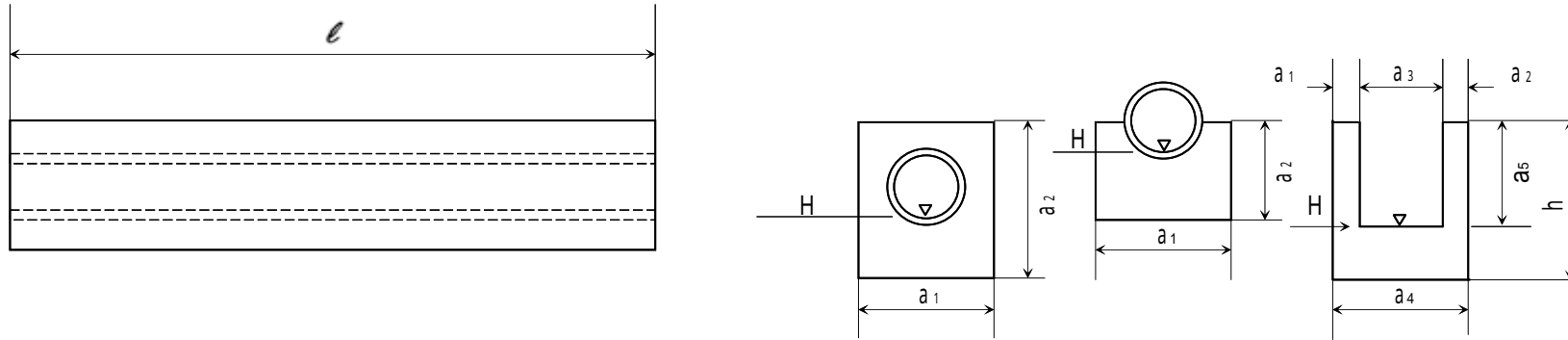
- 19-1 防音壁工事の出来形図表

図表-12(1) 擁壁・ブロック積の出来形図表



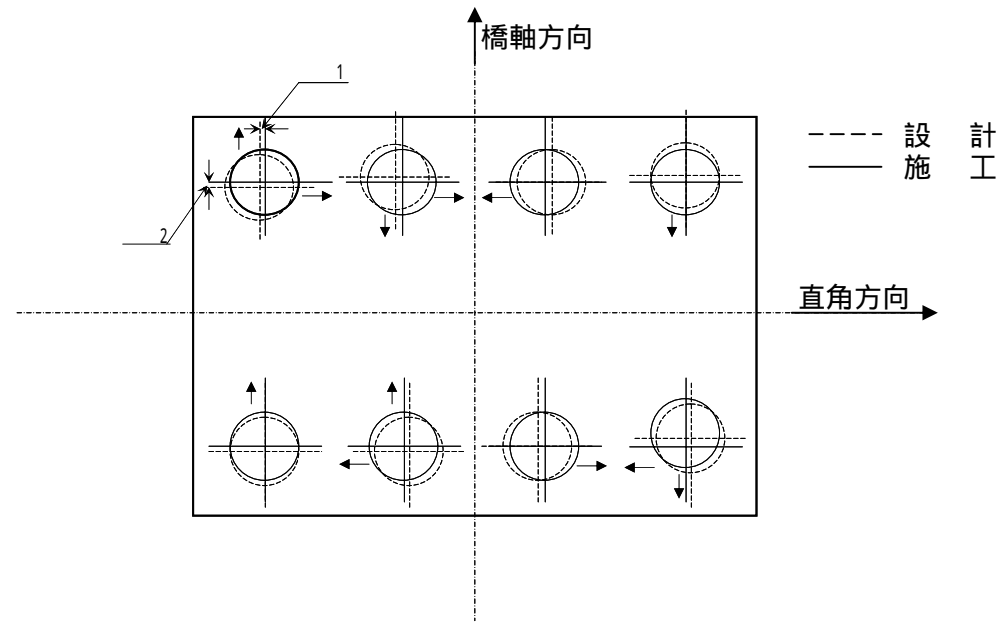
測定番号	項目 値	断 面 寸 法					延 長 l	基 準 高 H	高 さ h
		a_1	a_2	a_3	a_4	a_n			
No.1	設計								
	施工								
	誤差								
	規格値								
No.n	設計								
	施工								
	誤差								
	規格値								

図表 - 12(2) 函渠、側溝、管渠の出来形図表



測定番号	項目 値	断面寸法					延長 l	基準高 H	高さ h
		a_1	a_2	a_3	a_4	a_5			
No.1	設計								
	施工								
	誤差								
	規格値								
No.n	設計								
	施工								
	誤差								
	規格値								

図表 - 14(1) 基礎杭の出来高図表

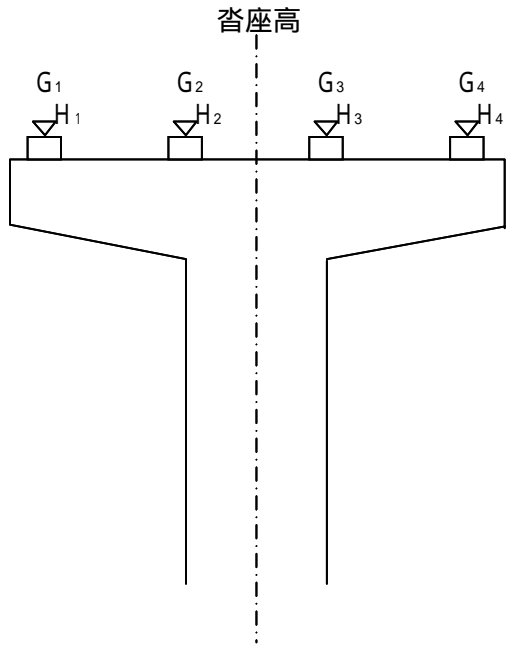


橋脚番号

杭 No.	1	2	$(1^2 + 2^2)^{1/2}$	規格値

注1. 現場打コンクリート杭、既製杭、鋼製杭について作成する。
 2. 誤差の数値は、mm単位で図中に記入する。

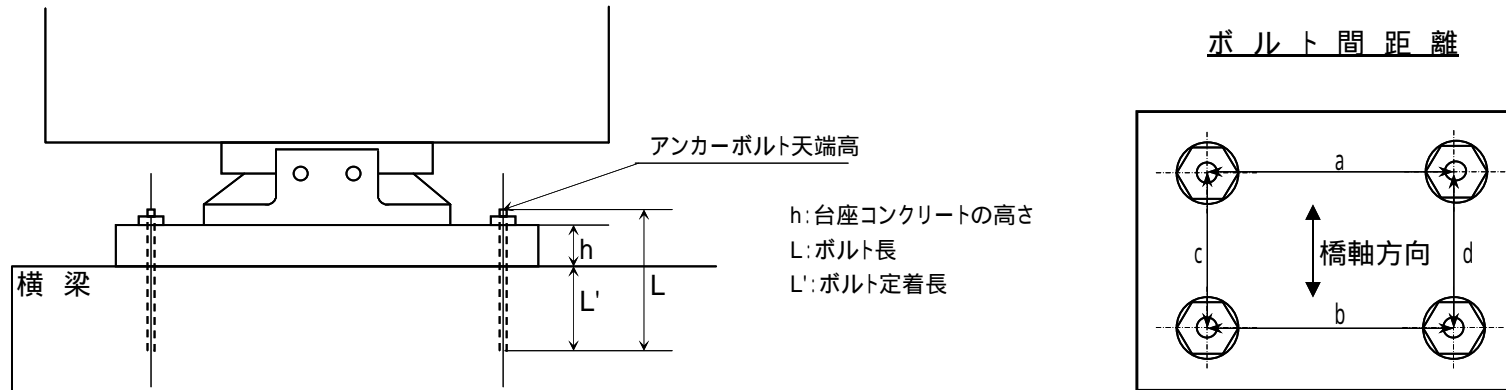
図表 - 14(3) 下部の出来形図表



橋脚番号

	沓座番号 種別	G ₁	G ₂	G ₃	G ₄	G _n
		H ₁	H ₂	H ₃	H ₄	H _n
脚番号-1側	基準高					
	施工高					
	誤差					
	規格値					
脚番号+1側	基準高					
	施工高					
	誤差					
	規格値					

図表 - 14(6) (鋼製支承及びゴム支承)
 沓座アンカーボルト 出来形管理表
 (規格値・ボルト高さ 0~20mm 群水平度5mm以内)

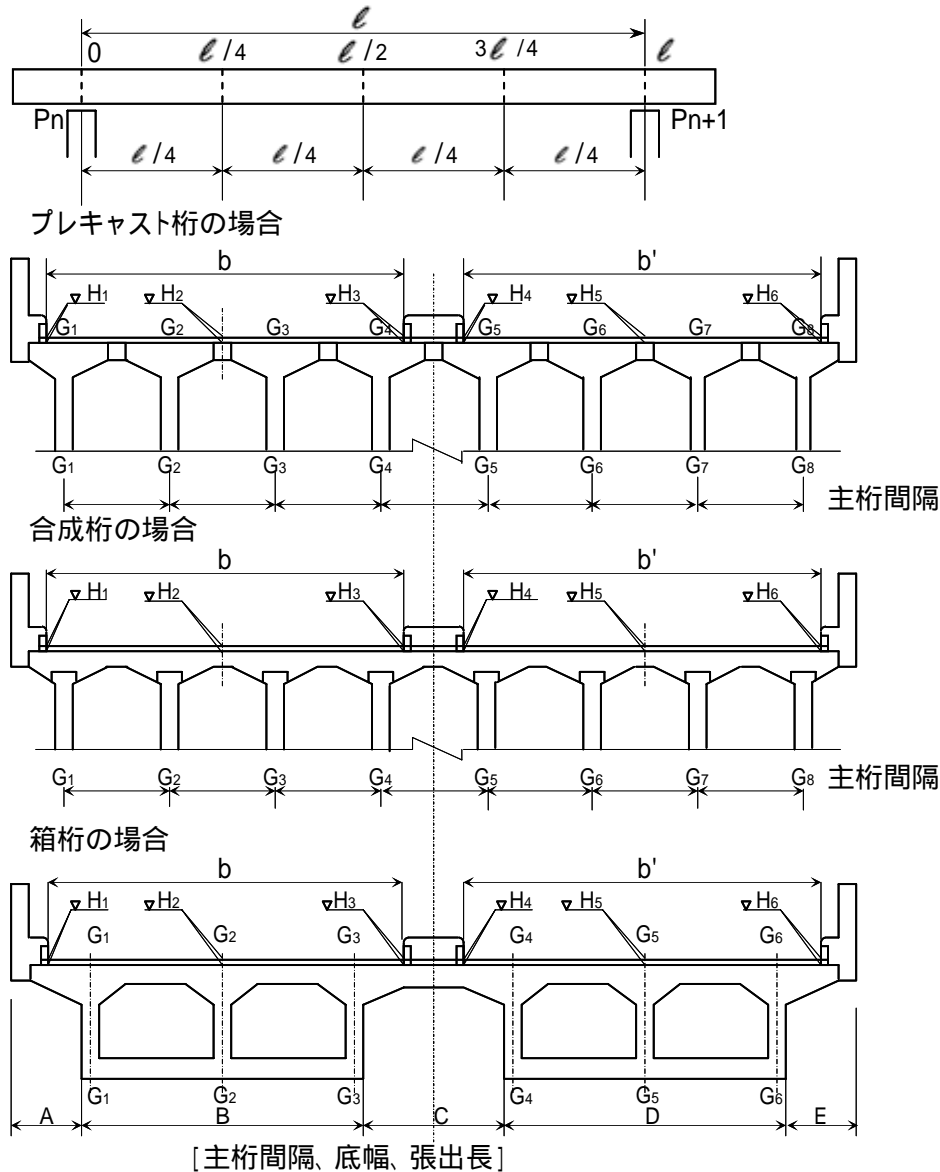


単位: mm

沓座番号	1				2			
ボルト番号	1	2	3	4	1	2	3	4
ボルト径								
ボルト長L(L')								
ボルト設計高								
ボルト実測高								
誤 差								
群 水 平 度								
ボルト間距離	a	b	c	d	a	b	c	d
設 計 値								
実 測 値								
誤 差								

ボルト相互間距離の規格 ± 5mm以内

図表 - 15(1) PC 桁工事の出来形図表



注1. 、 、 を参考にして、設計横断面図を書く。

2. 図表は、各径間毎に1枚の図面(A1版)に表示し、施工高関係は図表 - 15(2) に準じて作成する
3. 本出来形図 - 15(1)、15(2)表は、舗装工事の資料として引き継ぐ。
4. 主桁間隔の測定位置は橋脚位置で行う。ただし の場合は1/4点も測定を行う。

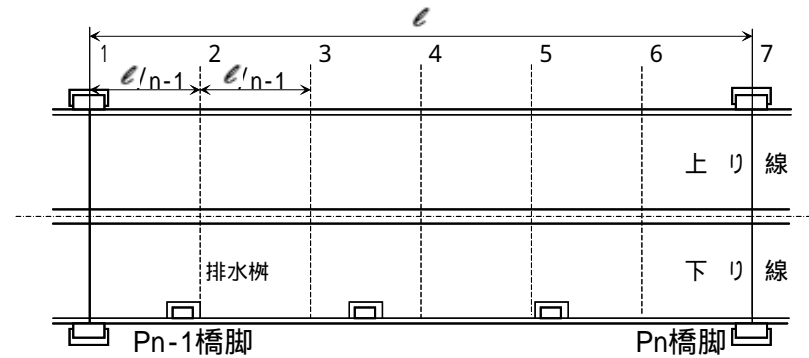
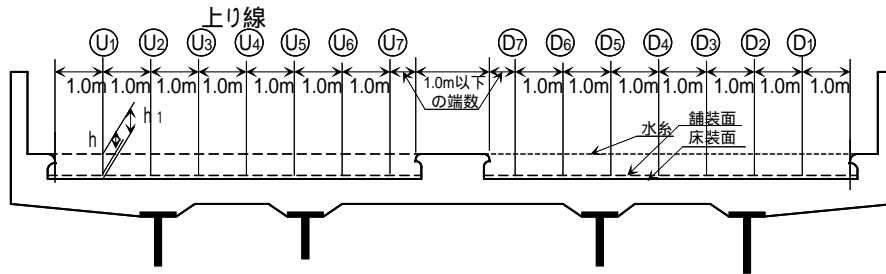
の場合

位置		桁番号	寸法			
			G ₁ -G ₂	G ₂ -G ₃	G ₃ -G ₄	G ₄ -G ₅
P _n	P _{n-1}	設計 施工 誤差				
	P _{n+1}	設計 施工 誤差				

の場合

橋軸位置		横断位置	寸法				
			A	B	C	D	E
P _n	P _n 上 or P _{n+1} 上	設計 施工 誤差					
	l/4 間隔	設計 施工 誤差					

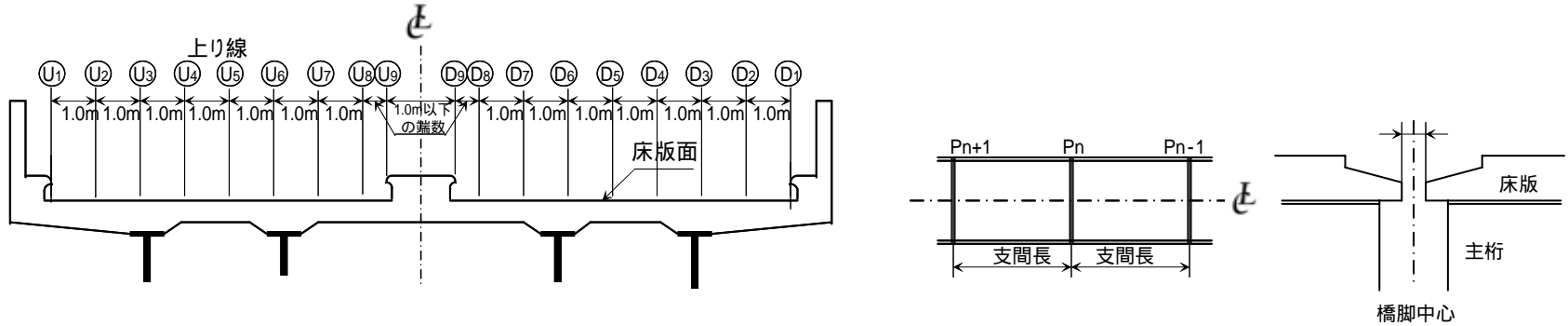
図表 - 16 (2) 床版工事及び舗装工事の出来形図表



測点		上り線または下り線		U ₁		U ₂		U ₃		U ₄		U _n		平均	備考
		項目	施工高	誤差	施工高	誤差	施工高	誤差	施工高	誤差	施工高	誤差	施工高		
1	h ₁														地覆 cm
	h ₂														設計舗装厚 cm
2	h ₁														
	h ₂														
3	h ₁														
	h ₂														
4	h ₁														
	h ₂														
5	h ₁														
	h ₂														
6	h ₁														
	h ₂														
n	h ₁														
	h ₂														

- 注1. 本出来形図表は舗装工事の資料として引き継ぐ。
- 2. 格点番号は、上部工事(床版工事)と同じ位置とする。
- 3. h₂の値は舗装工事で記入する。

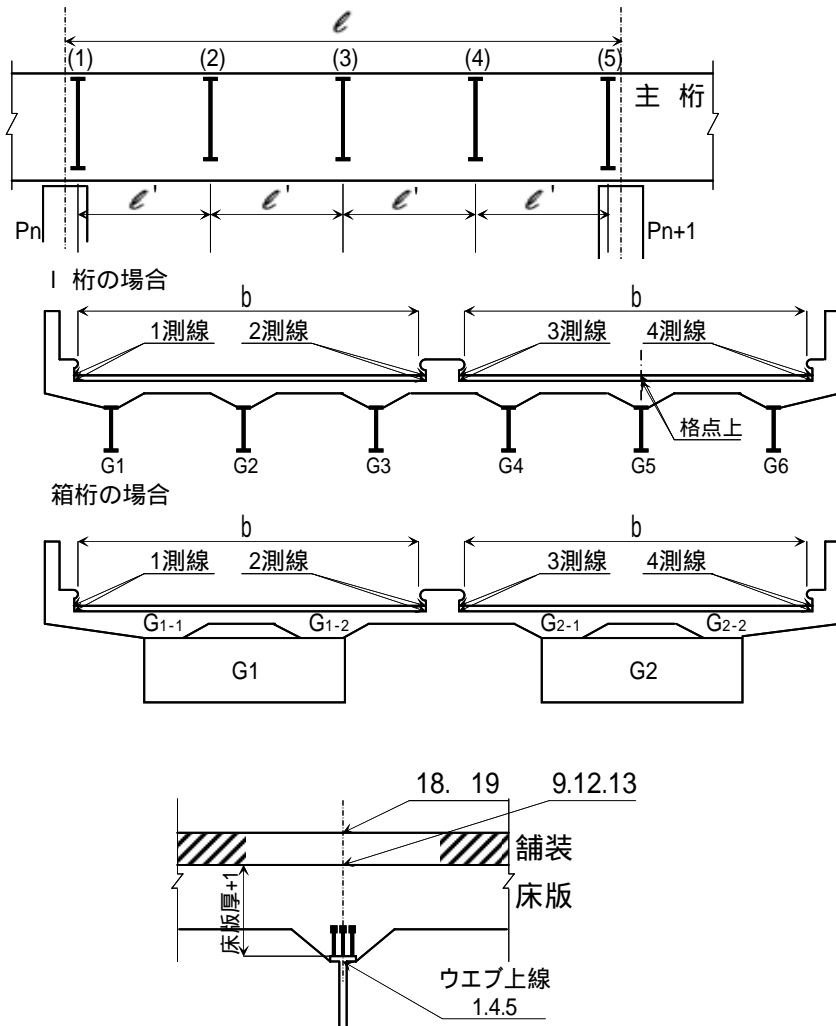
図表 - 16 (3) 床版游間量の測定図表



橋脚番号		支承条件	支間長 m	測定年月	測定位置	測定時温度				単位: mm	備考
				測定値()	U1	U2	U3	U4	平均值		
Pn	Pn-1側	Mov		床版 游間量	上り線						
	Pn+1側	Fix			下り線						
Pn+1	Pn側	Mov		床版 游間量	上り線						
	Pn+2側	Fix			下り線						
		Mov		床版 游間量	上り線						
		Fix			下り線						

注1. 本表の床版游間量の測定は、「伸縮継手設計施工要領」に従って行なう
 2. 本表は設計グループへも提出する。

図表 - 17(1) 鋼桁、床版、舗装工事の出来形図表



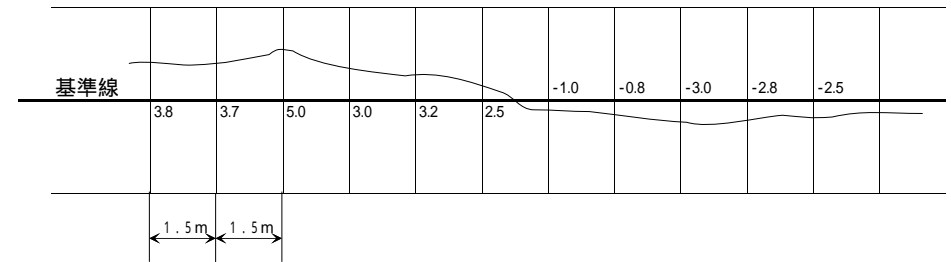
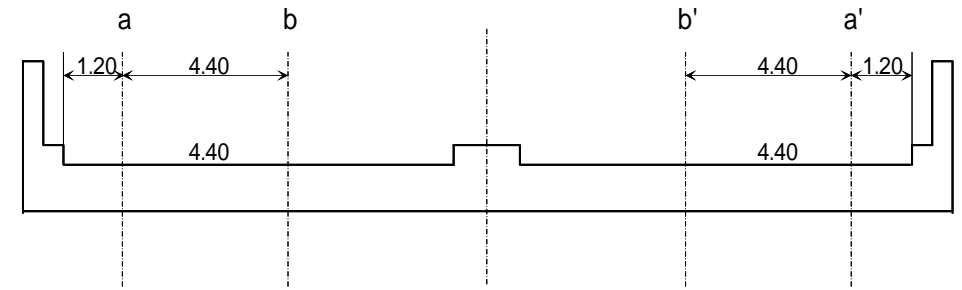
項目	Pn ~ Pn+1	格点n	1測線 G1
鋼桁架設前	1. 基準高	上	
鋼桁架設後高 施工高	2. 鋼桁自重によるタワミ量	上	
	3. 橋梁のタルミ量による変位量	上	
	4. 基準高(ウェブ上線)	1-(2+3)	上
	5. 施工高(ウェブ上線)		上、床
	6. 誤差	5-4	上、床
	床版打設計画高	7. 床版設計ハンチ高	上
8. 床版修正ハンチ高		7-6	上、床
9. 床版打設基準高			上
床版打設後高 施工高	10. 床版によるタワミ量	4+7+床版厚	上
	11. 橋梁のタワミ量による変位量		上
	12. 基準高	9-(10+11)	上
	13. 施工高		床、舗
舗装打設計画高	14. 誤差	13-12	床、舗
	15. 舗装設計厚		上
舗装打設後高 施工高	16. 舗装によるタワミ量	上	
	17. 橋梁のタワミ量による変位量	上	
	18. 計画高(路面)		上、床
	19. 施工高		舗
	20. 誤差	19-18	舗
記事欄	21. 上フランジ厚		上
	22. 製作キャンバー	2+10+16	上
	1	1=18-(15+7+床版厚)+22+3+11+17 (高欄、地覆、分離帯含む)	

注1. 測定年月、測定時温度を記入する。

2. 本図表は、床版及び舗装工事の資料として引き継ぐ。

図表 - 17(2) 舗装平坦性出来形図表

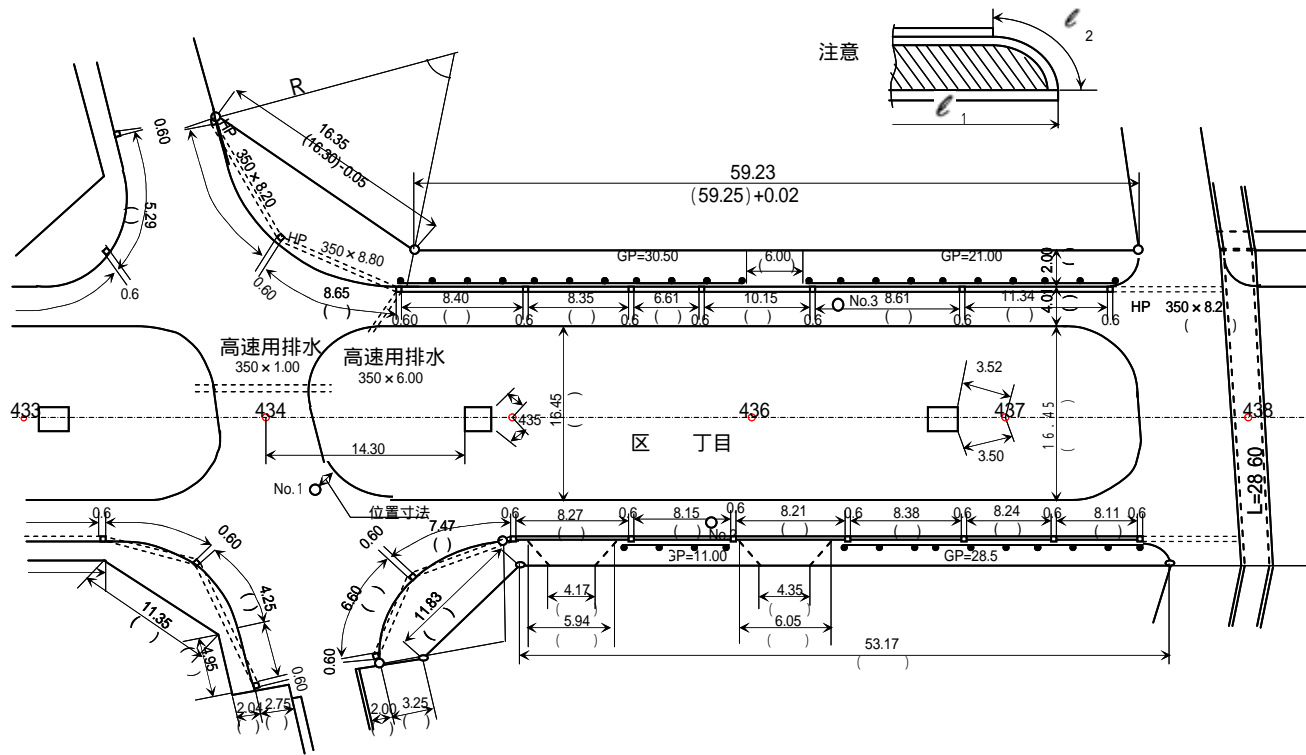
路面の平坦性試験											試験報告用紙					
調査・工事名		A舗装工事					試験年月日				年		月		日	
測定区間		No. ~ No.					測定器の種類				3mプロフィールメーター					
測標の位置		C m					試験者									
測定距離		A km														
n Gi											Gimax	Gimini	Ri			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			-			
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
測定値の数nによってきまる 定数d2												合計 Ri				
Riの平均値 /n																
標準偏差 /																



注1. 平坦性の測定は、車線a、b、a、b線について全延長に亘り行なうこと。

図表 - 18(1) 街築工事の出来形図表

平面図



凡例

並木柵		
ガードレール		G.L
ガードパイプ		G.P
車道切下げ部分		
ボックスカルバート		B.C
ヒューム管		H.P
陶管		T.P
U形側溝		
L型側溝(管渠部)街渠柵F型		
L型側溝(路盤部)街渠柵G型		
No. h		コア採取

記載要領

- 縮尺は、1/300 とする。
- 設計長 (施工長誤差) のように記入する。
- コア-採取位置は、番号を付け平面図余白にコア-の柱状図を書くこと。

参考

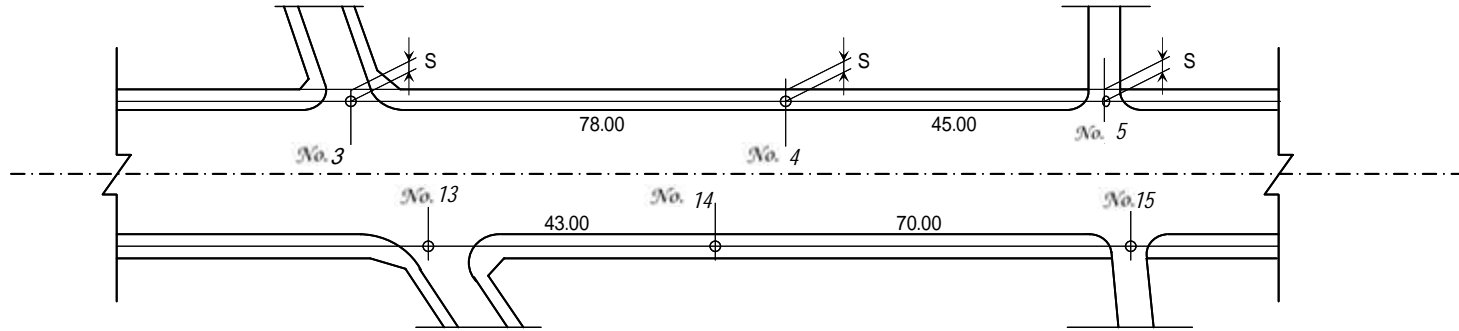
	表層	CM
	中間層	CM
	基層	CM

- 注 1. 街築工事の出来形図表は委託先の仕様を原則とする。
 2. 平面図は本図を参考にして書く。
 3. 測点は 20m 間隔とする。
 4. 後日測点位置がわかるよう、既設構造物からの距離を明示しておくこと。
 5. 施工後実測する場合に歩道止石(曲線部)上境石との結合点の長さが重複するので注意すること。

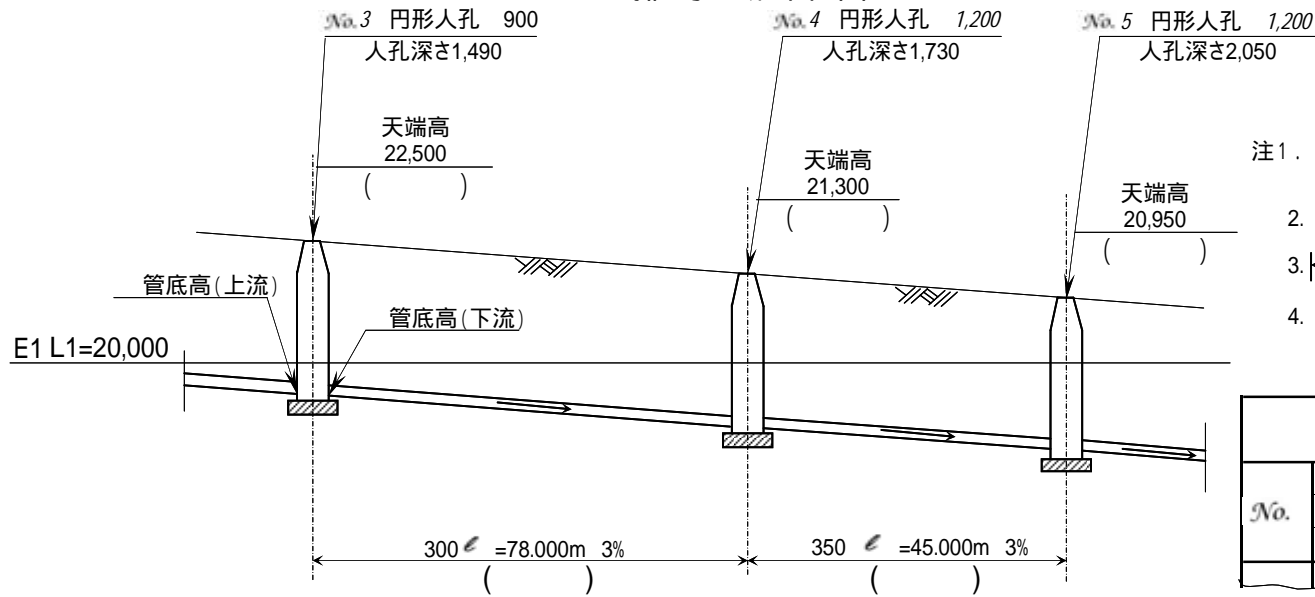
施工箇所	工種	設計長	施工長	備考
左第一	街渠工			
右第一	歩道止石工			

図表 - 18(2) 街築工事の出来形図表

平面図



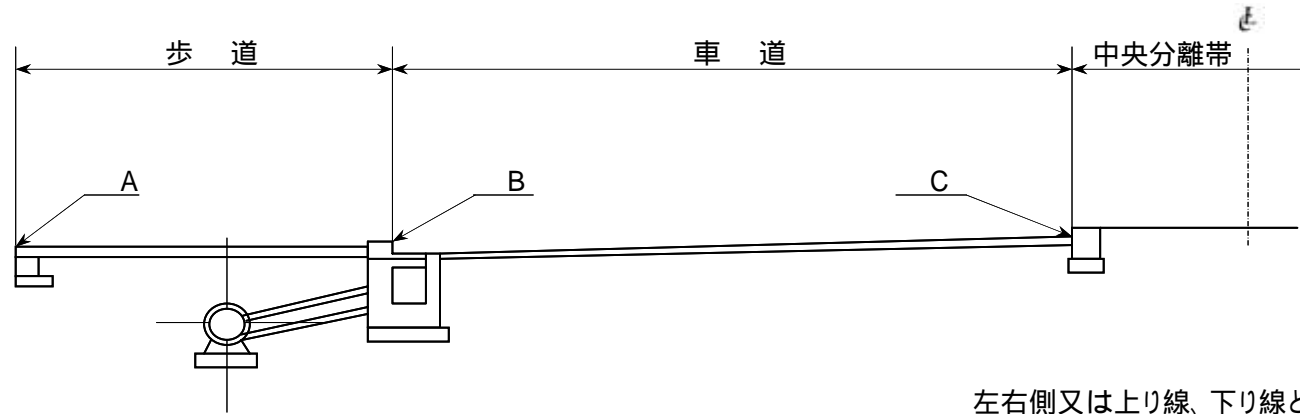
排水断面図



- 注1. 街築工事の出来形図は、委託先の仕様を原則とする。
- 2. 設計排水縦断面を使用する。
- 3. 設計長 (施工長)誤差 のように記入する
- 4. 図表は1枚の図面(A1版)に表示する。

		管底高		平面位置
		上流	下流	S
No.	設計			
	施工			
	誤差			

図表 - 18(3) 街築工事の出来形図表

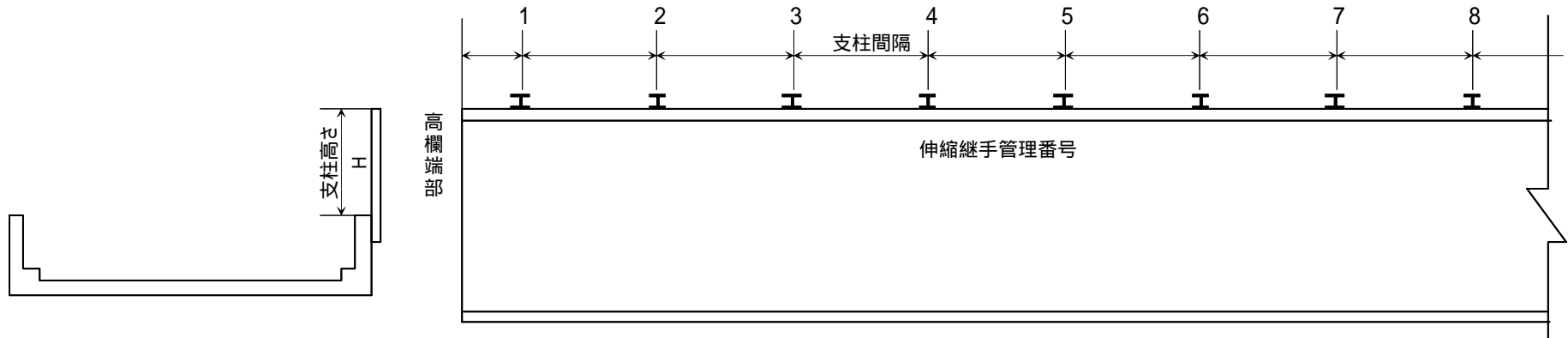


左右側又は上り線、下り線と表示

測点番号	幅員						高さ						
	車道		歩道		分離帯		高路左			路面右			
	左	右	左	右	左	右	A	B	C	A	B	C	
No.	設	計											
	施	工											
	誤	差											
No.	設	計											
	施	工											
	誤	差											
No.	設	計											
	施	工											
	誤	差											
No.	設	計											
	施	工											
	誤	差											

注1. 街築工事の出来形図表は、委託先の仕様を原則とする。

図表 - 19 防音壁工事の出来形図形



支柱番号	支柱間隔			支柱高さ			備考
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
高欄端部							
1							
2							
3							
4							
5							

出来形管理基準（保全土木編）

2025 年 4 月

首都高速道路株式会社

ま え が き

首都高速道路株式会社では、前身の公団の時代から、保全部門（管理局）で発注した工事目的物の施工管理に関する規定を、土木工事共通仕様書に記載されている出来形規格値、保全（土木編）共通仕様書、土木材料共通仕様書等により出来形・品質の規格値を定め品質の向上を図ってきた。

工事目的物の品質は、施工過程における出来形管理及び品質管理の善し悪しに依って大きく影響されるものであるため、この度『出来形管理基準（保全土木編）』（以下『基準』という。）を新たに制定した。

本基準では、工種毎に工事目的物の出来形に係わる「出来形管理基準」と施工過程の品質管理に係わる「品質管理基準」に分けて記述した。

また、付録として出来形図表を参考に掲載した。

本基準は、今後の一層の品質向上に向けてさらなる整備を行うことを目的に、多くの方に利用して頂き、たくさんの意見を徴収できれば幸いと考えている。

以上

出来形管理基準 (保全土木編)

目 次

1	鋼製橋脚天端拡幅工	1～4頁
2	鉄筋コンクリート橋脚天端拡幅工	5～6頁
3	支承取替工	7～11頁
4	鋼桁・桁連結装置工	12～14頁
5	変位制限構造	15頁
6	炭素繊維補強工	16～17頁
7	鋼製橋脚隅角部補強工(あて板補強)	18～20頁
8	遮音壁設置工	21～22頁
9	裏面吸音板設置工	23～26頁

参 考 資 料

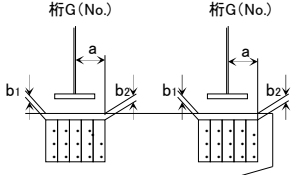
- § 1 天端拡幅ブラケット出来形管理表
- § 2 支承ベースプレート据付管理表
- § 3 支承据付出来形図表
- § 4 桁連結装置遊間出来形図表

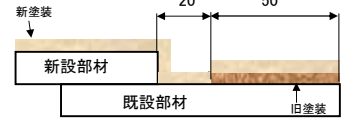
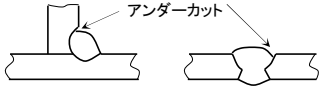
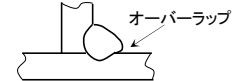
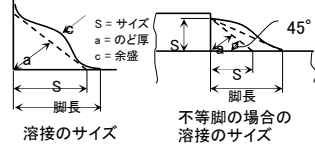
参 考 図

- ・ 補強板取付出来形図
- ・ ストップホール出来形図
- ・ スカラップ出来形図
- ・ 大コア抜き出来形図

※工事の種類、規模、施工条件等により、この出来形管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値等が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。

1 鋼製橋脚天端拡幅工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	孔明工	孔明径・位置・数の確認	摩擦接合 M20、M22、M24のボルト孔の径の許容差は、各ボルト径+0.5	孔の処理状況確認および貫通ゲージで確認する 貫通ゲージ径は各ボルト径+1.0 摩擦接合の貫通率100%	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁515.516
	ブラケット取付位置 および据付精度	横方向 a	±5	既設ウェブセンターから ブラケット端部までの長さ確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案)H10.5 支承・連結装置耐震性向上工事 
		高さ b1 b2	±5	ブラケット両端での橋脚天端高さの確認	
		水平度	1/50	橋軸直角方向のみ	

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	素地調整工	ケレン範囲	ブラケット接触面 +20以上 塗り重ね面 +50以上※ ※旧塗装が防食下地の場合は+10以上		
		補強材(溶接) 周囲+100以上			
		素地調整状況		さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月
	橋脚補強材 現場溶接工	ビード長	80以上	開先溶接 ルート間隔の誤差:規定値±1.0mm以下 開先角度:規定値±10°	すみ肉溶接の最小有効長はサイズの10倍以上、且つ80mm以上確保する 道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁220, 533
		密着度	$1 < \delta \leq 3$ 脚長を δ のばす $3 < \delta$ 開先を取り溶接 δ : 材片間の隙間	すみ肉溶接 材片の密着度:1.0mm以下	
	補強材取付 現場溶接工	外観目視		われ、スラグ、スパッタがないこと	
		アンダーカット	主要部材に働く一次応力に直行するビード止端部 許容量0.3mm		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁235
			主要部材に働く一次応力に平行なビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量 0.8mm		
		オーバーラップ		あってはならない	
		ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲における高低差で表し、3mmを超える凹凸があってはならない		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550
すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚		規定値以上	1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに-1.0mmの誤差を認める		
浸透探傷			われがあってはならない		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼製橋脚天端拡幅工 (ブラケット取付工)	高力ボルト接合工	高力ボルト接合面 処理確認	摩擦面のすべり係数 ・両側無機ジンクリッチペイント: 0.45 ・片側無機ジンクリッチペイント、 片側鋼材面:0.45 (鋼材面は、2種ケレン後、適度に 発錆させる) ・両側鋼材面:0.40	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁572 橋梁構造物設計施工要領 [II 鋼橋・鋼部材編] 第1編設計 平成31年3月 II-1-16
		高力ボルト現場予備試験 (トルシアボルト)	常温時(10~30℃)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20—172KN~202KN M22—212KN~249KN M24—247KN~290KN 常温時以外(0°~10°、30°~60° C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20—167KN~211KN M22—207KN~261KN M24—241KN~304KN	・5本/日の締付け軸力試験 ・X-R管理図作成	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁575、579 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁81、82
		高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト軸力 F10T M20—172KN~190KN M22—215KN~237KN M24—249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁236、690 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁77
				変動係数 5% 出荷時	
				施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370
		軸力計の検定		基準となる計測機器が示す値の3%以内の値、現場搬入時1回・3ヵ月に1回の検定試験	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%	ナット・座金・母材にかけてのマーキングの確認	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁579 土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5
		ボルト締付後(トルシアボルト)		ピンテールの切断・マーキングの変動	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁581
		ボルト締付後(高力六角ボルト)		トルク法 トルクレンチによる10%抜き取り検査	土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5
	継手の肌すき		回転角法 マーキングの変動		
	ボルト孔径の許容差	ボルト孔径	M20	22.5	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁515
			M22	24.5	
M24			26.5		
摩擦接合	M20~M24	+0.5	摩擦接合の場合は1ボルト部の20%に対しては、+1.0mmまで認めてよい	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁516	

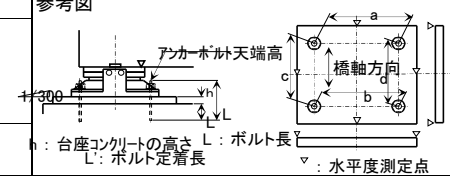
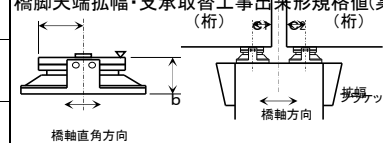
測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準		摘要
工種	測定項目				
鋼 製 橋 脚 天 端 拡 幅 工 (ブラケット取付工)	現場塗装工	塗料現場材料	品質検査結果を確認		鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月
			設計数量 (充缶確認)	製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合	
			使用数量 (空缶確認)	塗料工事終了後の空缶数量の確認	
		塗装完了外観		たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない	
	塗膜厚	鋼橋塗装設計施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上、測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない ※塗替塗装においては、塗膜乾燥後の膜厚測定は省略する(参考値として測定を行う場合も、誤差が多く含まれているため、管理指標とはしない)		

2 鉄筋コンクリート橋脚天端拡幅工

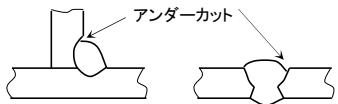

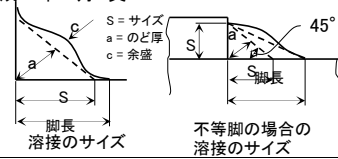
測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
R C 橋 脚 天 端 拡 幅 工 (ブ ラ ケ ッ ト 取 付 工)	アンカーボルト設置工	定着長 (最小埋込長)	15D以上 (Dはアンカー径)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57	
	アンカーボルト締付工	ナットからの頭出し量	3山以上	絞め忘れ、ナットの緩み等の確認 	
	アンカーボルト の施工精度	ボルト群天端高	0～+20		
		ボルト群水平度	5 以内		
		ボルト相互間の間隔	±5		
		鉛直度	1/200		
	ブラケット取付位置 および据付精度	横方向 a	±5	既設ウェブセンターから ブラケット端部までの長さ確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案)H10. 5 支承・連結装置耐震性向上工事 
		高さ b1 b2	±5	ブラケット中心での橋脚天端高さ	
		水平度	1/50	橋軸直角方向のみ	
	ブラケット製作精度	板厚	JIS G 3106とJIS G 3194によるものとする		JIS G 3106 JIS G 3194
幅		±2			
高さ		±2			
孔位置		±2			
孔径		0～+5			
平面度	H/250				

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
R C 橋 脚 天 端 拡 幅 工 (ブ ラ ケ ッ ト 取 付 工)	アンカーボルト削孔工	削孔位置、数、その他	孔内清掃状況も目視確認 主鉄筋が切断されていないこと だめ孔は完全に処理すること 鉄筋探査後の孔明位置図を作成すること アンカーボルトのネジ部の余長は、3山以上		
		削孔径	ボルト径 +10	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57	
		削孔長	設計削孔長以上		
		最小埋込長 (定着長)	15D以上 (Dはアンカー径)	定着長はUT検査で確認すること(H15.6.9 保全指 導第82号「落橋防止装置等のアンカーボルト定着不足 工事の再発防止について」)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57
	エポキシ樹脂注入工 (現場搬入前検査)	構造物補修・補強用樹脂施工要領 2022年6月によるものとする			構造物補修・補強用樹脂施工要領 2022年6月
	(施工中検査)				
	アンカーボルト樹脂注入工	樹脂充填確認		空洞があってはならない(樹脂注入孔から樹脂が 溢れ、取付けているビニール袋に溜まったことを確 認する)	
	背面樹脂注入工	最小厚(t)	管理目標値 平均 3	樹脂注入パイプ、エア抜きパイプの確認	構造物補修・補強用樹脂施工要領 2022年6月 頁38 コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁52
	コンクリート面処理	下地処理範囲	ブラケット接触面+30mm以上		
		下地処理状況		塗膜、汚れ等の不純物除去	コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁27
アンカーボルト 引抜強度試験			許容最大引抜力以上3本(径ごと)		

3 支承取替工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
支 承 取 替 工	ゴム支承の据付精度	据付高さ	-5 ~ +5	道路橋支承便覧 平成30年12月 頁587	
		可動支承の移動可能量	設計移動量以上	道路橋支承便覧 平成30年12月 頁587	
		可動支承の橋軸方向のずれ	5	参考図	
		支承中心間隔 (橋軸直角方向)	鋼橋	$\pm(4+0.5 \times (B-2))$ Bは支承中心間隔 (m)	
			RC橋	±5	
		支承水平度	橋軸方向 1/300 橋軸直角方向 1/300		
	隣接する支承間の支承据付高さの相対変化量	3以内(絶対値)を原則とする	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12. 9. 6 保全施設部(事務連絡)		
	鋼製支承の据付精度	据付高さ	-5 ~ +5	道路橋支承便覧 平成30年12月 頁589	
		可動支承の移動可能量	設計移動量以上	道路橋支承便覧 平成30年12月 頁589	
		可動支承の橋軸方向のずれ	5	参考図 上記同様	
		支承中心間隔 (橋軸直角方向)	鋼橋	$\pm(4+0.5 \times (B-2))$ は支承中心間隔 (m)	
			RC橋	±5	
		支承水平度	橋軸方向 1/100 橋軸直角方向 1/100		
	隣接する支承間の支承据付高さの相対変化量	3以内(絶対値)を原則とする	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12. 9. 6 保全施設部(事務連絡)		
	据付精度 (ゴム、鋼製共通)	支承中心間隔 a	主桁webセンターから上沓端部までの長さを確認する 上記「据付精度」規格値参照	保全施設部 暫定案 H10. 5 橋脚天端幅・支承取替工事出来形規格値(案) (桁) 	
取付位置 b		ベースプレート上面 から上沓天端高さ ±5			
桁端距離 C1,C2		桁端から支承中心 までの距離 ±10			

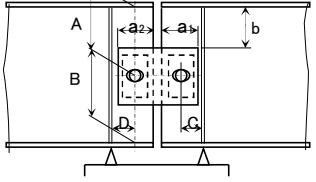
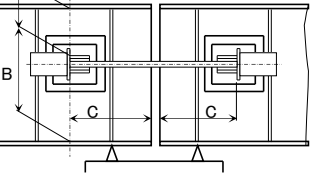
測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
工種	測定項目			
支 承 取 替 工	アンカーボルト設置工	定着長 (最小埋込長)	15D以上 (Dはアンカー径)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57
	アンカーボルト の施工精度	ボルト群天端高	0～+20	
		ボルト群水平度	5 以内	
		ボルト相互間の間隔	±5	
		鉛直度	1/200	

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
支 承 取 替 工	素地調整工	ケレン範囲	部材取付周囲+100以上 (溶接熱影響範囲)	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月	
		素地調整状況			さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる
	組立溶接工	ビート長	80以上		鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁189 道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁220
		密着度	$1 < \delta \leq 3$ 脚長を δ のばす $3 < \delta$ 開先を取り溶接 δ : 材片間の隙間	すみ肉溶接 材片の密着度 : 1.0mm以下	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁533
	補強材取付 現場溶接工	外観目視		われ、スラグ、スパッタがないこと	
		アンダーカット	主要部材に働く一次応力に直行する ビード止端部 許容量0.3mm		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁235 
			主要部材に働く一次応力に平行な ビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量 0.8mm		
	オーバーラップ		あってはならない		
	ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード長さ 25mmの範囲における高低差で 表し、3mmを超える凹凸があつて はならない			道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550
	すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚	規定値以上		1溶接線の両端各50mmを除く部分 では、溶接長さの10%までの範囲で サイズ及び、のど厚ともに-1.0mm の誤差を認める	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁219 
浸透探傷			われがあってはならない		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
支 承 取 替 工	ジャッキアップ工	ジャッキアップ高さ	3以下	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12. 9. 6 保全施設部(事務連絡)に準拠	
	ジャッキダウン後の管理値	据付管理値(個々の据付高さ)	-5~+5	道路橋支承便覧 平成30年12月 頁587, 589	
		桁相互間相対差	0~3	支承・連結装置耐震性向上工事における支承取替時の据付高さ管理について H12. 9. 6 保全施設部(事務連絡)	
	鋼桁橋の上巻取付高力ボルト接合工	高力ボルト接合面処理確認	摩擦面のすべり係数 ・両側無機ジンクリッチペイント: 0.45 ・片側無機ジンクリッチペイント、片側鋼材面: 0.45 (鋼材面は、2種ケレン後、適度に発錆させる) ・両側鋼材面: 0.40	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁572 橋梁構造物設計施工要領 [II 鋼橋・鋼部材編] 第1編設計 平成31年3月 II-1-16
		高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト 軸力 F10T M20—172KN~190KN M22—215KN~237KN M24—249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁236, 690 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁77
				変動係数 5% 出荷時	
				施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370
		軸力計の検定		基準となる計測機器が示す値の3%以内の値、現場搬入時1回・3か月に1回の検定試験	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		高力ボルト予備一次締め		ナット、座金、母材にかけてのマーキングの確認	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁579 土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5
		ボルト締付後(高力六角ボルト)		トルク法 トルクレンチによる10%抜取り検査 回転角法 マーキングの変動	土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5
	継手の肌すき		部材と連結材は締付けにより密着させる		
	現場塗装工	塗料現場材料		品質検査結果を確認 設計数量(充缶確認) 製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合 使用数量(空缶確認) 塗料工事終了後の空缶数量の確認	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要		
工種	測定項目					
支 承 取 替 工	現場塗装工	塗装完了外観		たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月	
		塗膜厚	鋼橋塗装設計施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上、測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない ※塗替塗装においては、塗膜乾燥後の膜厚測定は省略する(参考値として測定を行う場合も、誤差が多く含まれているため、管理指標とはしない)		
	アンカーボルト埋込溶接工	ベースプレート表面の水平度	鋼製支承 橋軸方向 1/100 橋軸直角方向 1/100		道路橋支承便覧 平成30年12月 頁587, 589	
			ゴム支承 橋軸方向 1/300 橋軸直角方向 1/300			
	支承の溶接部検査			支承の溶接部は浸透探傷による非破壊検査を実施し、溶接が完全であることを確認する		
	無収縮モルタル工	土木材料共通仕様書 2024年10月によるものとする			土木材料共通仕様書 2024年10月 頁4-6	
	アンカーボルト削孔工	削孔位置、数、その他		孔内清掃状況も目視確認 主鉄筋が切断されていないこと だめ孔は完全に処理すること 鉄筋探査後の孔明位置図を作成すること		
			削孔径	ボルト径 +10		既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57
			削孔長	設計削孔長以上		
			最小埋込長(定着長)	15D以上 (Dはアンカー径)	定着長はUT検査で確認すること(H15.6.9 保全指導第82号「落橋防止装置等のアンカーボルト定着不足工事の再発防止について」)	既設橋の支承・落橋防止システム設計要領 H9. 9 頁57

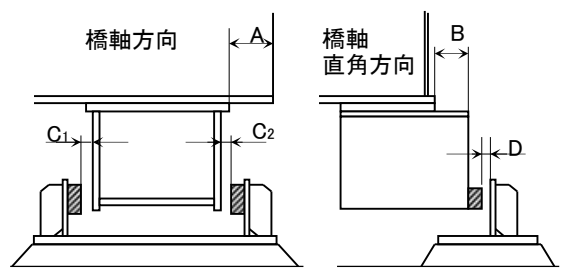
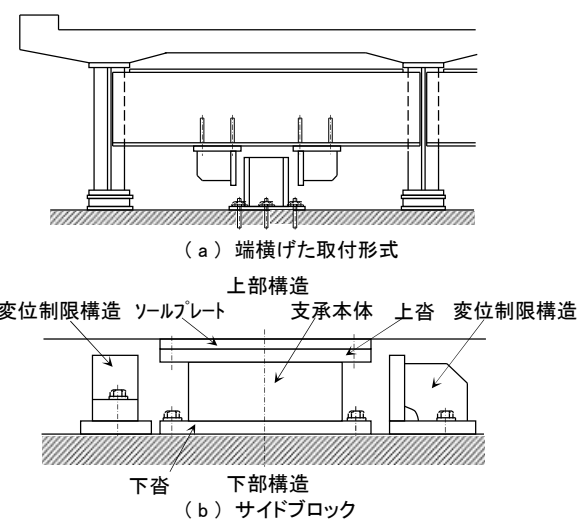
4 鋼桁・桁連結装置工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
桁 連 結 装 置 工 (鋼桁タイプ)	めがねタイプ	孔明径の確認	0 ~ + 0.5	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁516 に準拠	
		メガネ孔の位置 横方向 C D	± 5	CDは、支点上補強材よりメガネ孔の中心までの距離	保全施設部 暫定案 H10. 5 
		メガネ孔の高さ AorB	± 5	A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりピン孔の中心までの距離	
		補強板据付位置 横方向 a1,a2	± 2	a1,a2は、桁端部より補強板面までの距離	
		連結板据付位置 高さb	± 5	b は、UPフランジより連結板上面までの距離	
	ベースタイプ	ピン孔の位置 高さ A or B	± 5	A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりピン孔の中心までの距離	
	P C鋼材タイプ	横方向 C	± 3	Cは、桁端部よりブラケット・フランジ前面までの距離	保全施設部 暫定案 H10. 5 
		高さ A or B	± 3	A or Bは、桁上フランジ又は桁下フランジよりブラケット上部までの距離	

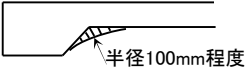
測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要		
工種	測定項目					
桁 連 結 装 置 工 (鋼桁タイプ)	素地調整工	ケレン範囲	連結板接触面 +20以上 塗り重ね面 +50以上※ ※旧塗装が防食下地の場合は+10以上			
		素地調整状況	さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる		鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月	
	補強材現場溶接工	溶接工は現場溶接工に準ずる	橋脚現場溶接工に準ずる			
	高力ボルト接合工	高力ボルト接合面処理確認	高力ボルト接合面処理確認	摩擦面のすべり係数 ・両側無機ジンクリッチペイント: 0.45 ・片側無機ジンクリッチペイント、片側鋼材面: 0.45 (鋼材面は、2種ケレン後、適度に発錆させる) ・両側鋼材面: 0.40	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付着物の除去	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁572 橋梁構造物設計施工要領 [II 鋼橋・鋼部材編] 第1編設計 平成31年3月 II-1-16
		高力ボルト現場予備試験(トルシアボルト)	高力ボルト現場予備試験(トルシアボルト)	常温時(10~30°C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-172KN~202KN M22-212KN~249KN M24-247KN~290KN 常温時以外(0°~10°, 30°~60°C)の締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-167KN~211KN M22-207KN~261KN M24-241KN~304KN	・5本/日の締付け軸力試験 ・X-R管理図作成	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁575, 579 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁81, 82
		高力六角ボルト	高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト軸力 F10T M20-172KN~190KN M22-215KN~237KN M24-249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁236, 690 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁77
					変動係数 5% 出荷時	
					施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付ける方法でキャリブレーションを行なう	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370
		軸力計の検定	軸力計の検定		基準となる計測機器が示す値の3%以内の値、現場搬入時1回・3ヵ月に1回の検定試験	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		トルクレンチの検定	トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
高力ボルト予備一次締め	高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%	ナット、座金、母材にかけてのマーキングの確認	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁579 土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準		摘要	
工種	測定項目					
桁 連 結 装 置 工 (鋼桁タイプ)	高力ボルト接合工	ボルト締付後(トルシアボルト)	ピンテールの切断・マーキングの変動		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁581	
		ボルト締付後(高力六角ボルト)	トルク法	トルクレンチによる10%抜き取り検査	土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5	
			回転角法	マーキングの変動		
	現場塗装工	塗料現場材料		品質検査結果を確認		鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月
			設計数量 (充缶確認)	製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合		
			使用数量 (空缶確認)	塗料工事終了後の空缶数量の確認		
	塗装完了外観		たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない			
	塗膜厚	鋼橋塗装設計施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上、測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない ※塗替塗装においては、塗膜乾燥後の膜厚測定は省略する(参考値として測定を行う場合も、誤差が多く含まれているため、管理指標とはしない)			

5 変位制限構造

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要
工種	測定項目			
変位制限構造	変位制限装置	橋軸方向 C ₁ ,C ₂	±5	<p>支承・連結装置耐震性向上工事(暫定案)H10.5 頁80 落橋防止装置(PC鋼材タイプ)出来形規格値相当</p>  <p>道路橋支承便覧 平成16年4月 頁318</p>  <p>(a) 端横げた取付形式 上部構造 変位制限構造 ソールプレート 支承本体 上沓 変位制限構造 下沓 下部構造 (b) サイドブロック</p>
		橋軸直角方向 D		
		据付位置 A,B		

6 炭素繊維補強工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
炭 素 繊 維 補 強 工	不陸修正工 (下地処理状況)	パテ処理完了後の 平坦性 (α)		任意の100cm間で凹部を5mm以下かつ25mm間で部分的な凸凹がないこと また、型枠等の段差は1mm以下とする 隅角部辺長方向の直線度は100cm間で±5mm以内とする	
		隅角部の処理		ハンチ内面隅角部は不陸修正剤を半径100mm程度盛付処理する 	
	炭素繊維シート 貼付工	完了確認 浮き、膨れの直径(σ)	30以内		コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁33 目視、打音検査による浮きの確認
		浮き、膨れ10~30mm以下	1㎡当り 10個未満		
		継ぎ手長(L)	$L \geq 100$		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
炭 素 織 維 補 強 工	下地処理工	段差修正工 (型枠の段差h)	1 以内	・段差修正前の形状寸法の確認 ・断面修復完了確認	
		素地調整工		表面風化層、レイトンス層、型枠剥離剤等が除去されていること	コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁27
	プライマー工	プライマー塗布状況 及び完了確認		・塗布ムラがあってはならない ・塗布前のコンクリート表面は乾燥状態にあること ・塗布剤が気温に合わせて選択されていること	コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁28
	墨出し工	墨出し位置確認		炭素繊維シートの貼り付け位置が割付実施図どおりであること	
	表面仕上工			・有害な欠陥があってはならない ・仕上剤の所定膜厚が確保されていること	コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁31
	養生工			雨水や砂・埃が付着しないように必要に応じビニールシート等による養生を行う	
	使用材料 (CFRPシート)	付着強度試験	母材破壊または、 引張強度 1.5N/mm ² 以上	施工中に1回以上の付着強度試験を行う	コンクリート床版補強設計施工要領 平成26年8月 頁32 日本規格協会JIS A 6909 (付着強さ試験による)

7 鋼製橋脚隅角部補強工(あて板補強)

測定対象		規格値 (単位mm)		出来形管理基準		摘要			
工種	測定項目								
鋼 製 橋 脚 隅 角 部 補 強 工	あ て 板 補 強 工 部 材 取 付 工	支圧ボルト用孔明工 孔明径	ボルトの呼び	支圧接合ボルト 孔の径mm				矩形断面では支圧ボルトに過大なせん断力が作用することが ないように配慮することとし、円形断面では補強材に作用する 応力が高い位置での肌すきを小さくするよう配慮した打ち込み 順序で施工すること 既設橋梁構造物補修・補強要領 鋼製橋脚隅角部の補強設計施工編 平成19年7月 頁29 道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁515	
			M20	21.5					
			M22	23.5					
			M24	25.5					
		支圧ボルト径の許容差	ボルトの呼び	支圧接合ボルト孔の 径の許容差				道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁516	
			M20	± 0.3					
			M22	± 0.3					
		支圧ボルト孔の貫通率 および停止率	ボルトの呼び	貫通ゲージ の径mm	貫通率(%)	停止ゲージ の径mm	停止率(%)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁517	
			M20	20.7	100	21.8	100		
			M22	22.7	100	23.8	100		
		取付部材精度						補強材と母材は支圧ボルトの締付により密 着させる・肌すきが生じないようにすること	取り付け部材と橋脚との肌すきの確認
			項目	管理目標値	管理限界値				
側面 あて板 部	$0 \leq \delta \leq 3$		$0 \leq \delta \leq 5$						
肌隙管理値(円柱)	側面 あて板 部を除く	$0 \leq \delta \leq 5$	$0 \leq \delta \leq 10$		フィルタープレートで調整 鋼製橋脚隅角部補修補強時の支圧接合における施工管理に ついて H14.8 資料 頁10 管理目標値並びに管理限界値は参考値であり、実施設計に おいて設計担当部署と協議のうえ数値を定めること				

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要		
工種	測定項目					
鋼 製 橋 脚 隅 部 補 強 工	素地調整工	ケレン範囲	補強板接触面+20以上 塗り重ね面 +50以上※ ※旧塗装が防食下地の場合は+10以上			
		素地調整状況	さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる 摩擦接合としての性能が得られる処理を 施すこと			
	高力ボルト接合工	高力ボルト接合面 処理確認	摩擦面のすべり係数 ・両側無機ジンクリッチペイント:0.45 ・片側無機ジンクリッチペイント、片側鋼材 面:0.45 (鋼材面は、2種ケレン後、適度に発錆させ る) ・両側鋼材面:0.40	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等付 着物の除去	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁572 橋梁構造物設計施工要領 [II 鋼橋・鋼部材編] 第1編設計 平成31年3月 II-1-16	
		高力ボルト現場予備試験 (トルシアボルト)	常温時(10~30°C)の締付けボルト軸力の平 均値 S10T M20-172KN~202KN M22-212KN~249KN M24-247KN~290KN 常温時以外(0° ~10° , 30° ~60° C)の 締付けボルト軸力の平均値 S10T M20-167KN~211KN M22-207KN~261KN M24-241KN~304KN	・5本/日の締付け軸力試験 ・X-R管理図作成	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁575, 579 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁81, 82	
		高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト軸力 B10T,F10T M20-172KN~190KN M22-215KN~237KN M24-249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁236, 690 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁77	
				変動係数 5% 出荷時	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370	
		支圧接合高力ボルト 締付け軸力管理値(M22)	トルク管理をする際の 締付け軸力管理値(KN)		トルク法によって締付ける場合の締付けボ ルト軸力は、設計軸力の10%増しを標準と する (締付けボルト軸力 =設計ボルト軸力×1.1)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁575
			管理下 限值	締付けボルト軸力×0.8 205×1.1×0.8 = 181		
		軸力計の検定	管理上 限值	締付けボルト軸力×1.1 205×1.1×1.1 = 248	施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時 には、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して 締付ける方法でキャリブレーションを行なう	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
			トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト 60% 六角ボルト 60~80%		ナット、座金、母材にかけてのマーキング の確認	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁579 土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準		摘要
工種	測定項目				
鋼 製 橋 脚 隅 角 部 補 強 工	高力ボルト接合工	ボルト締付後(トルシアボルト)	ピンテールの切断・マーキングの変動		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁581
		ボルト締付後(高力六角ボルト)	トルク法 回転角法	トルクレンチによる10%抜き取り検査 マーキングの変動	
	現場塗装工	塗料現場材料	品質検査結果を確認 設計数量 (充缶確認) 製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入 使用数量 (空缶確認) 塗料工事終了後の空缶数量の確認		鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月
		塗装完了外観	たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があつてはならない		
		塗膜厚	鋼橋塗装設計施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上、測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない ※塗替塗装においては、塗膜乾燥後の膜厚測定は省略する(参考値として測定を行う場合も、誤差が多く含まれているため、管理指標とはしない)	
		補強板の端(こば)の板間	継手部周辺20mmにシール材を塗布すること		

8 遮音壁設置工

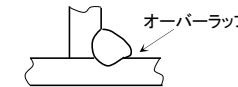
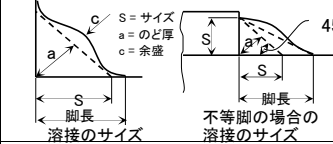
測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
遮音壁設置工	支柱建込工 落下防止索工	建込位置の確認	支柱設置間隔 ±5	支柱間ごと	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
			設置高さ ±5	支柱ごと	
			鉛直度 H/500(外側方向)	橋脚部および支間中央部	
	遮音板設置工	出来形規格値	設置延長 ±30	橋脚毎	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
			設置高さ ±5	橋脚部及び支間中央部	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
			地覆より 250以上	建築限界の確認	
	化粧板設置工	出来形規格値	設置延長 ±30	橋脚毎	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5
			設置高さ ±5	橋脚部及び支間中央部	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 遮音壁改築工事 保全施設部 H10.5

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
遮音壁設置工	現地罫書工	罫書	罫書位置の確認	外観目視による罫書状況の確認 基準墨よりの罫書位置の検測確認	
		鉄筋検査	鉄筋探査結果の確認	鉄筋探査結果との整合性確認	
	現場孔明工	孔明位置の確認	鉄筋探査後の孔明位置図を作成する 基準墨より孔明位置の検測確認 孔内の清掃状況の確認 孔径の検測確認		
	支柱建込工	建込位置の確認	取付位置の確認 外観の目視確認		
	吸音板・外装板取付工 および落下防止索工	ボルト締付状況	締付完了時のマーキング、レンチによる 抜取により締め忘れ及び共廻りの有無の 確認		
		落下防止ワイヤー取付	ワイヤークリップ締付方向確認		

9 裏面吸音板設置工

測定対象		規格値 (単位mm)	出来形管理基準	摘要	
工種	測定項目				
裏面吸音板設置工	吊支材、横梁・縦梁取付工	横梁設置高さ H	±15	主桁下フランジ上面から横梁上面までの高さの確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		縦梁設置間隔 Bv	±5	各縦梁間隔の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		横梁設置間隔 Bh	±5	各横梁間隔の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		縦梁設置長 Lv	±30	各縦梁設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		横梁設置長 Lh	±20	各横梁設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		橋脚との隙間 ℓ	±30	縦梁端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
	裏面吸音板取付工	設置長 L	±30	ルーバー(吸音板)設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		設置幅 W	±20	ルーバー(吸音板)設置幅の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		橋脚との隙間 ℓ	±30	ルーバー(吸音板)端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
	化粧板取付工	設置長 L	±30	化粧板設置長の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5
		橋脚との隙間 ℓ	±30	化粧板端部と橋脚との隙間の確認	出来形規格値・出来形図表(暫定案) 保全施設部 裏面吸音板設置工事 H10.5

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
裏面 吸音 板設 置工	素地調整工	ケレン範囲	部材取付周囲+100以上 (溶接熱影響範囲)	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月	
		素地調整状況	さび、塗膜を除去し鋼材面を露出させる		
	現場孔明工	摩擦接合のボルト孔径の許容差	1ボルト群の20%に対しては +1.0%まで認める	ボルト孔の貫通率および停止率を行う	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁127
	新設補剛材取付工	外観目視		われ、スラグ、スパッタがあってはならない	
		アンダーカット	主要部材に働く一次応力に直行するビード止端部 許容量0.3mm		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁235
			主要部材に働く一次応力に平行するビード止端部 許容量0.5mm 二次部材のビード止端部 許容量0.8mm		
		ビード表面の凹凸	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲における高低差で表し、3mmを超える凹凸があってはならない		道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁550
		すみ肉溶接の大きさ 脚長・のど厚	規定値以上	1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚とも-1.0mmの誤差を認める	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁219
	オーバーラップ		あってはならない		
	浸透探傷試験		われがあってはならない		



測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
裏 面 吸 音 板 設 置 工	吊支材、横梁・縦梁 取付工(高力ボルト)	高力ボルト接合面 処理確認	摩擦面のすべり係数 ・両側無機ジンクリッチペイント: 0.45 ・片側無機ジンクリッチペイント、片 側鋼材面:0.45 (鋼材面は、2種ケレン後、適度に 発錆させる) ・両側鋼材面:0.40	鋼材面の露出および浮き錆、油、泥等附着 物の除去	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁572 橋梁構造物設計施工要領 [II 鋼橋・鋼部材編] 第1編設計 平成31年3月 II-1-16
		高力ボルト現場予備試験 (トルシア・ボルト)	常温時(10~30°C)の締付けボルト 軸力の平均値 S10T M20-172KN~202KN M22-212KN~249KN M24-247KN~290KN 常温時以外(0°~10°、30°~ 60° C)の締付けボルト軸力の平 均値 S10T M20-167KN~211KN M22-207KN~261KN M24-241KN~304KN	・5本/日の締付け軸力試験 ・X-R管理図作成	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁575、579 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁81、82
		高力六角ボルト	締付け機の調整に用いるボルト軸 力 F10T M20-172KN~190KN M22-215KN~237KN M24-249KN~275KN	トルク係数値の確認 0.11~0.16(平均値)	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁236、690 鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁77
				変動係数 5% 出荷時	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370
		高力ボルト現場材料		施工上やむをえずボルト頭を回して締付ける時に は、トルク係数が変わるのでボルト頭を回して締付 ける方法でキャリブレーションを行なう	鋼道路橋施工便覧 令和2年9月 頁370
		軸力計の検定		規格証明書、試験成績表と搬入材料との照 合、及び数量の確認	
		軸力計の検定		基準となる計測機器が示す値の3%以内の 値、現場搬入時1回・3か月に1回の検定試験	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		トルクレンチの検定		現場搬入時1回・搬入後1回/月検定	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁577
		高力ボルト予備一次締め	トルシアボルト 60%	ナット・座金・母材にかけてのマーキングの 確認	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁579 土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工 8.5.5
			六角ボルト 60~80%		
		継手の肌すき		締付けにより密着させる	
		ボルト締付後(トルシアボルト)		ピンテールの切断・マーキングの変動	道路橋示方書・同解説 II 鋼橋・鋼部材編 平成29年11月 頁581
	ボルト締付後(高力六角ボルト)		トルク法	トルクレンチによる10%抜取り	土木工事共通仕様書2024年7月 第8章鋼構造物工8.5.5
		回転角法	マーキングの変動		
吊支材、横梁・縦梁 取付工(普通ボルト)	普通ボルト締付		締付完了時のマーキング、レンチによる抜取 により締め忘れ及び共廻りの有無の確認		

測定対象		規格値 (単位mm)	品質管理基準	摘要	
工種	測定項目				
裏 面 吸 音 板 設 置 工	現場塗装工	塗料現場材料	品質検査結果を確認	鋼橋塗装設計施工要領 2021年10月	
			設計数量 (充缶確認)		製造ロット毎に、塗料製造会社の出荷証明書と現場搬入数量を照合
			使用数量 (空缶確認)		塗料工事終了後の空缶数量の確認
	塗装完了外観	たれ、ちぢみ、むら、ふくれ等があってはならない			
	塗膜厚	鋼橋塗装設計施工要領に定める塗膜厚基準値以上	1ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上、測定値の最小値は目標塗膜厚合計値の70%以上、測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない ※塗替塗装においては、塗膜乾燥後の膜厚測定は省略する(参考値として測定を行う場合も、誤差が多く含まれているため、管理指標とはしない)		
	落下防止索工	普通ボルト締付	締付完了時のマーキング、レンチによる抜取により締め忘れ及び共廻りの有無の確認		
		落下防止ワイヤー取付	ワイヤークリップ締付方向確認		
	鳩害防止取付工	普通ボルト締付	締付完了時のマーキング、レンチによる抜取により締め忘れ及び共廻りの有無の確認		
		鳩害防止ワイヤー・ネット取付	ネット・ワイヤーの緩み、たるみがあってはならない		

参 考 资 料

§ 1. 天端拡幅ブラケット出来形管理表

1. ブラケット据付出来形管理表	1頁
2. ブラケット用アンカー孔 削孔径・削孔長管理表	2頁
3. ブラケット用アンカーボルト頭出し長管理表	3頁
4. ブラケット背面樹脂注入部叩き検査管理表	4頁
5. ブラケット背面隙間測定表	5頁

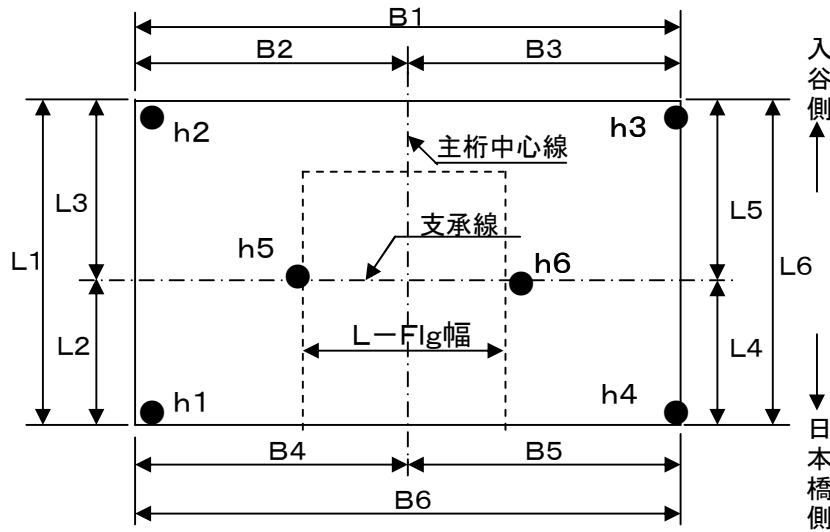
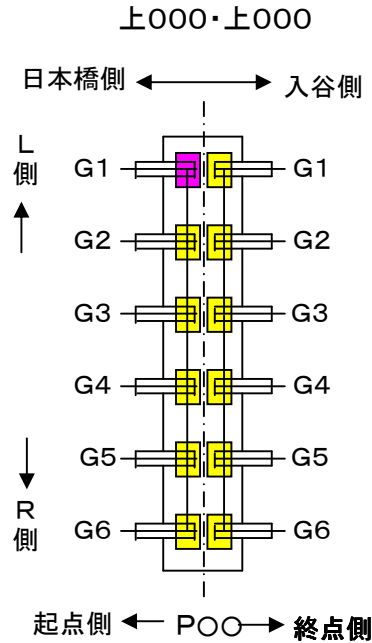
§ 2. 支承ベースプレート据付管理表

- | | |
|-----------------------|----|
| 1. ベースプレート据付管理表 | 1頁 |
| 2. 新設アンカー孔 削孔径・削孔長管理表 | 2頁 |
| 3. 沓座ハツリ幅・深さ管理表 | 3頁 |

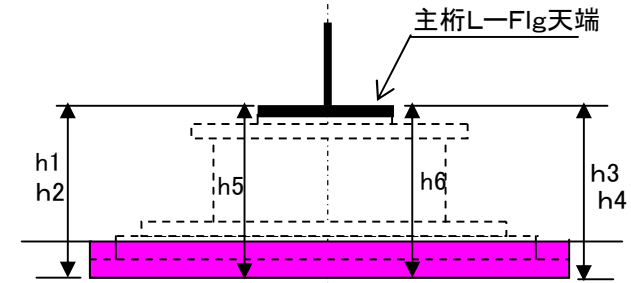
3. 沓座ハツリ幅・深さ管理表

工事名：

請負社名：



施工箇所	上000・上000 起点側Gn
社内検査日	平成00年00月00日
社内検査責任者	
検査補助者名	



上段	社内検査値
下段	立会検査値

* hの設計値は桁アップ量3mm加算

規格値
L、B：設計値以上
h：設計値以上

測点 項目	L1			L2			L3			L4			L5			L6			B1			B2								
	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差	設計値	計測値	誤差						
上000 ・ 上000																														
	B3			B4			B5			B6			h1			h2			h3			h4								
起点側 Gn																														
	h5			h6																					形状・深さ 合否					
																									合格					

F:
沓:
ソ:
調:
べ:
モ:
計:

§ 3. 支承据付出来形図表

1. 沓据付出来形図表	1頁
1. 可動支承・遊間出来形管理図表	2頁
2. 支承相对誤差出来形管理図表	3頁
3. モルタル出来形記録表	4頁

§ 4. 桁連結装置遊間出来形管理図表

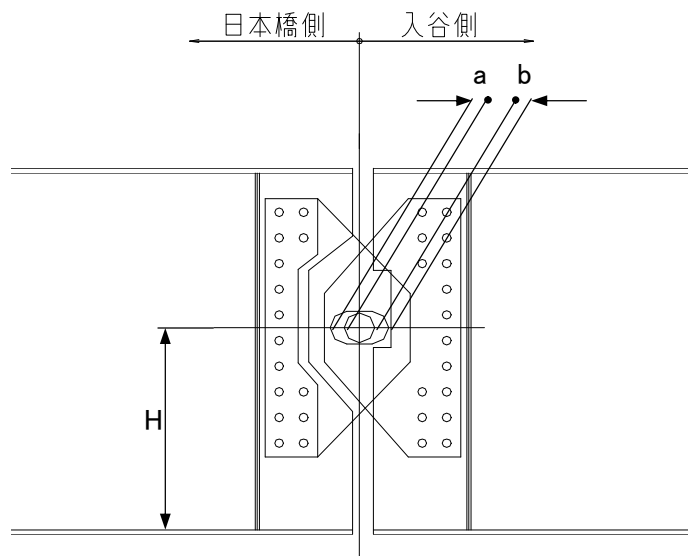
1. 桁連結装置遊間出来形管理図表	1頁
2. PCケーブル構造出来形管理図表	2頁
3. ブラケットタイプ出来形管理図表	3頁
4. メガネタイプ出来形管理図表	4頁
5. 横梁構造出来形管理図表	5頁

§ 4. 桁連結装置出来形管理図表

1. 桁連結装置・遊間 出来形管理図表

工事名称：

請負業者名：



橋脚番号	上〇〇〇・上〇〇〇
対象部材	桁連結 (HTB構造)
社内検査責任者	
検査補助者	
管理項目	規格値
測定日 (計測時)	平成〇〇年〇〇月〇〇日
天気・温度	曇 . °C
測定日 (立会時)	平成〇〇年〇〇月〇〇日
天気・温度	. °C

※設計温度 G1・G3・G5: °C
 ※設計温度 G2・G4・G6: °C
 規格値 : a、b の絶対値 ±10mm
 : H ±5mm
 設計値 a・b: mm

1°C当りの移動量

$$\begin{aligned} \Delta L &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \Delta T \\ &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \Delta T \quad ; \quad \times 1 \\ &= 0.00 \text{ mm/}^\circ\text{C} \end{aligned}$$

温度差による移動量

温度差	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
伸縮量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

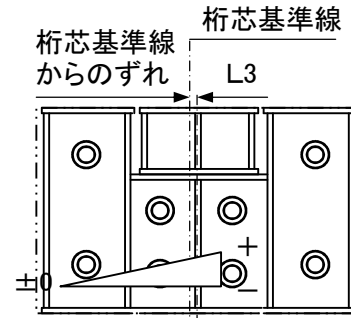
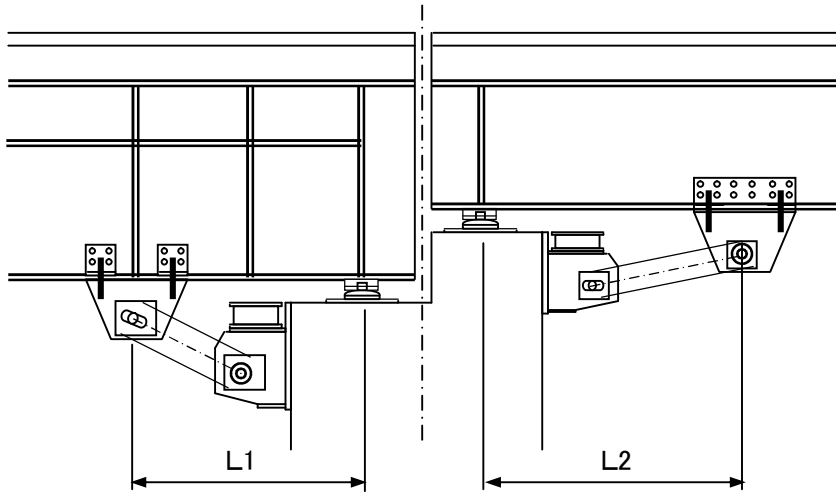
※入谷側 : Mov、日本橋側: Fix

桁番号	G 1			G 2			G 3			G 4			G 5			G 6			1支線上での最大誤差	
	測点	H	a	b	H	a	b	H	a	b	H	a	b	H	a	b	H	a		b
測定値	据付時																			
	計測時																			
移動量・誤差																				
立会値																				

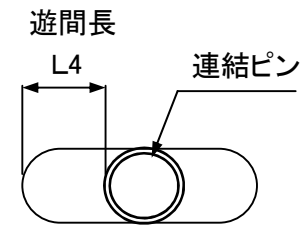
aライン
 G1・G3・G5
 0.0 mm
 G2・G4・G6
 0.0 mm

4. メガネタイプ出来形管理図表

工事名称 :
請負業者名 :



橋脚番号	上000・000(Pn)
対象部材	桁連結装置(メガネタイプ)
社内検査責任者	
検査補助者	
規格値	横方向 ±5mm、高さ ±5mm



温度差による移動量

『終点側』

$$\begin{aligned} \Delta L &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \\ &= 12 \times 10^{-6} \times L \times \text{°C} \times 000 \times 1 \\ &= 0.00 \text{ mm/°C} \end{aligned}$$

設計温度 : 20 °C、計測時温度 : (計測月日:

気温: °C)

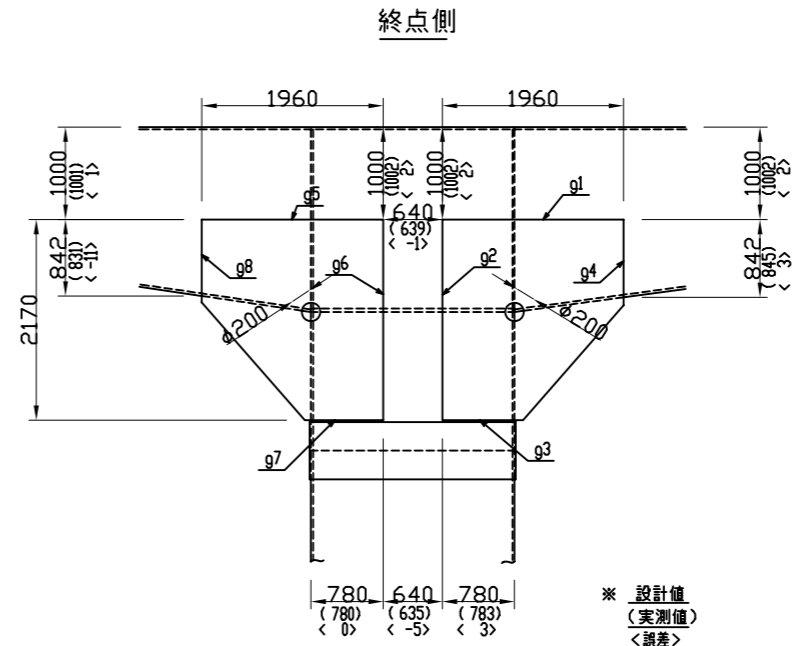
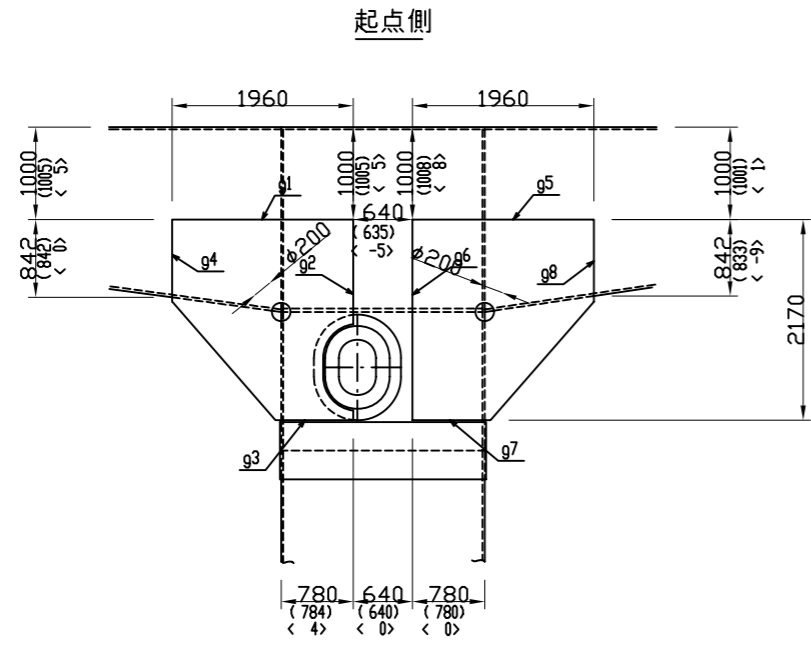
温度差	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
伸縮量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

測点	設計値	実測値	立会値	差	勾配 (%)				測点	設計値	実測値	立会値	差	勾配 (%)			
					設計値	実測値	立会値	差						設計値	実測値	立会値	差
G1 (起)	L1								G1 (終)	L1							
	L2									L2							
	L3									L3							
	L4									L4							
G2 (起)	L1								G2 (終)	L1							
	L2									L2							
	L3									L3							
	L4									L4							
									G3 (終)	L1							
										L2							
										L3							
										L4							

参 考 图

補強板取付出来形図

工事名
請負業者名
代表者名



* 設計値
(実測値)
<誤差>
管理値：±5mm

あて板肌隙(基点側) (単位:mm)

測定位置	g1	g2	g3	g4	g5	g6	g7	g8
設計値								
実測値								
誤差								

管理値：

あて板肌隙(終点側) (単位:mm)

測定位置	g1	g2	g3	g4	g5	g6	g7	g8
設計値								
実測値								
誤差								

管理値：

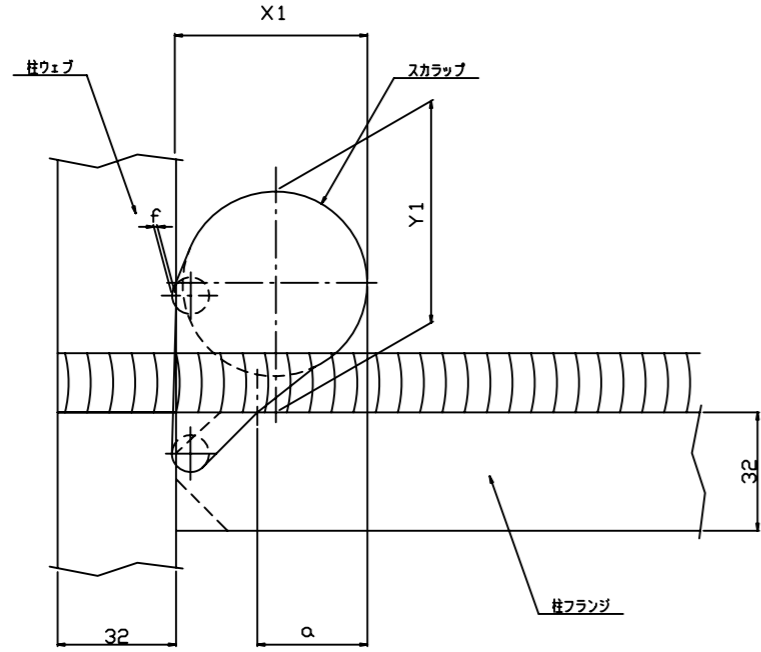
履歴欄	
-----	--

整理番号	図面番号	/
工事名		
路線名	縮尺	/
図面名	補強板取付出来形図	
設計請負者名	工事請負者名	
承認年月日	平成 年 月 日	しん 功 年 月 日 平成 年 月 日
建設部局名	工事事務所名	
首都高設計担当者	設計請負者	首都高工事担当者
代表者	代表者	代表者
首都高速道路株式会社		

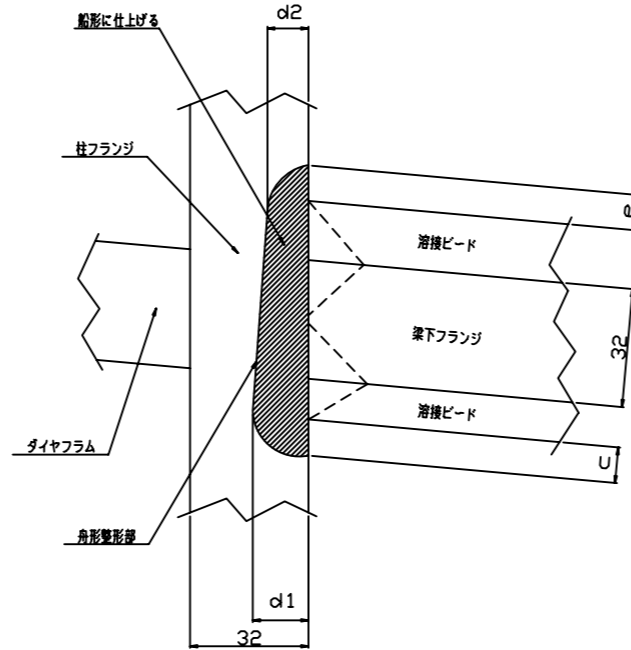
スカラップ出来形図

工事名
請負業者名
代表者名

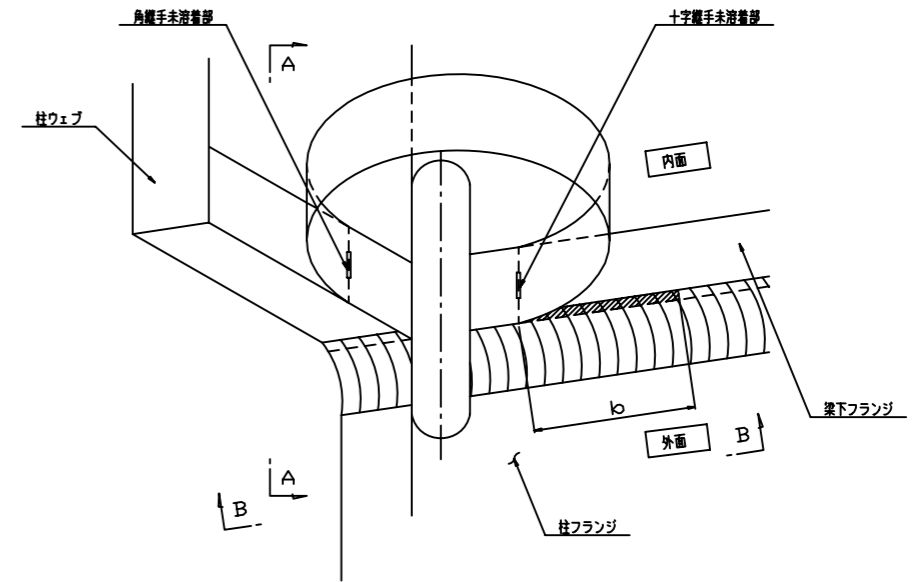
平面図<B-B>
(梁下フランジ下面より望む)



舟形整形図<A-A>



スカラップ部測定箇所



スカラップ出来形表

(単位: mm)

橋脚名	施工部位	項目	スカラップ孔の内径		柱部すりつけ長	止端部仕上長	舟形部すりつけ長		舟底部すりつけ長		母材側の端込長
		測定箇所	X1	Y1	a	b	c	e	d1	d2	f
三-001	終点側 (S-4)	設計値									
		実測値									
		誤差									
		管理値								—	—

*舟形部すりつけ長の管理値は、実測値(d1, d2)に対し、1~2倍と規定している。

履歴欄

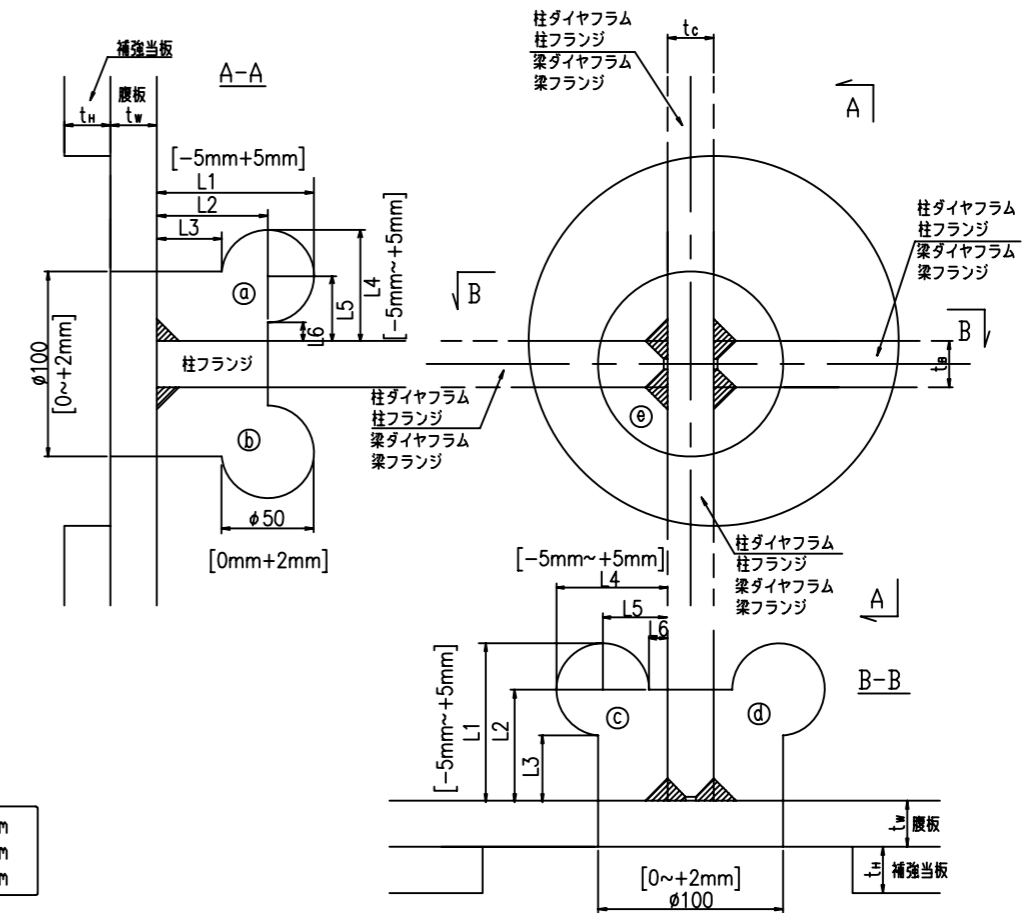
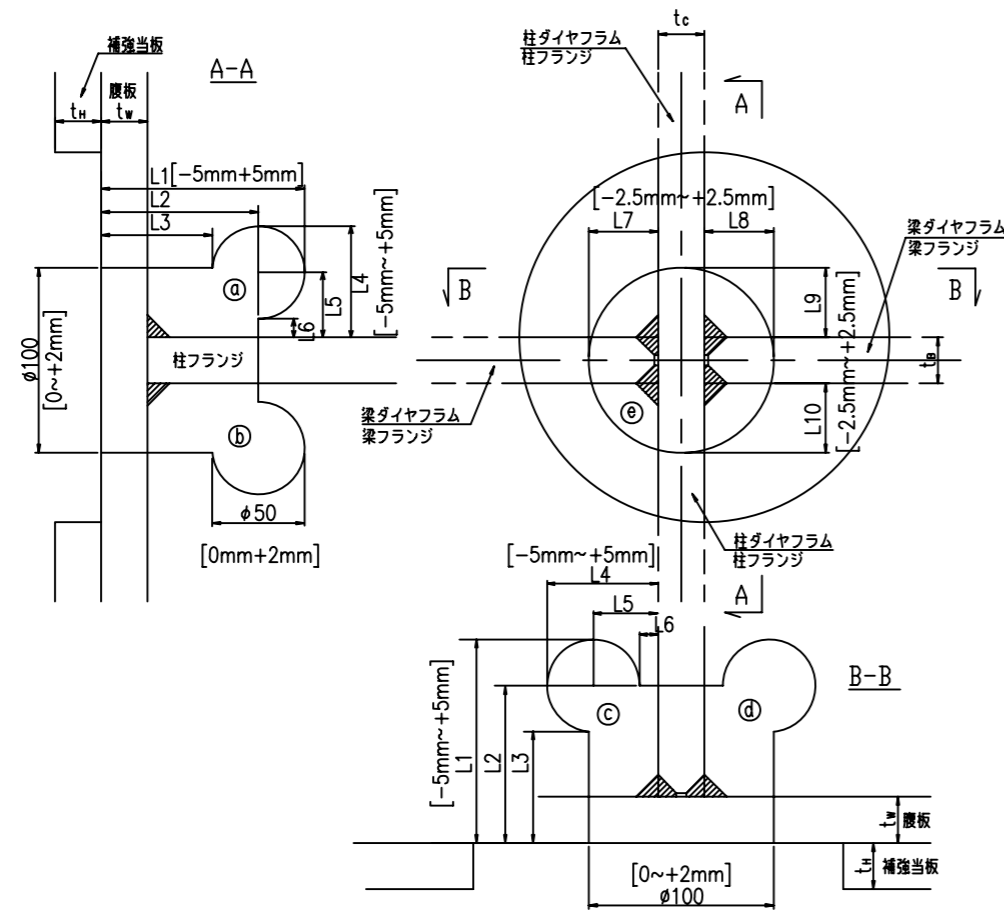
整理番号	図面番号	/
工事名		
路線名	縮尺	/
図面名	スカラップ出来形図	
設計請負者名	工事請負者名	
承認年月日	平成 年 月 日	しゅんこう年 月 日 平成 年 月 日
建設部局名	工事事務所名	
首都高設計担当者	設計請負者	首都高工事担当者
代表者	代表者	代表者
首都高速道路株式会社		

大コア抜き出来形図

工事名
請負者名
代表者名

外面

内面



t_c = mm
t_b = mm
t_w = mm

測定位置		判定：合・否				
(外面・内面)	設計値	実測値	誤差	管理値	立会値 (立会・自主)	備考
①	L1					
	L2					
	L3					
	L4					
	L5					
	L6	φ50				
②	L1					
	L2					
	L3					
	L4					
	L5					
	L6	φ50				
③	L1					
	L2					
	L3					
	L4					
	L5					
	L6	φ50				

測定位置		判定：合・否				
(外面・内面)	設計値	実測値	誤差	管理値	立会値 (立会・自主)	備考
①	L1					
	L2					
	L3					
	L4					
	L5					
	L6	φ50				
②	L7					
	L8					
	L9					
	L10	φ100				
注記)						

履歴欄

整理番号	図面番号	/
工事名		
路線名	縮尺	/
図面名	大コア抜き出来形図表	
設計請負者名	工事請負者名	
承認年月日	平成 年 月 日	しゅん功年月日 平成 年 月 日
建設部局名	工事事務所名	
首都高設計担当者	設計請負者	首都高工事担当者
代表者名	代表者名	代表者名
首都高速道路株式会社		